

令和5年度（2023年度）

事業計画書

学校法人 東京純心女子学園

目次

I 法人の概要	1
1. 設置する学校・学部・学科等	1
(1) 東京純心大学	1
(2) 東京純心女子中学校・高等学校	3
2. 学生生徒 在籍状況	4
3. 役員・教職員の概要	4
II 基本的取り組み	5
1. 東京純心大学の取り組み	5
2. 東京純心女子中学校・高等学校の取り組み	6
III 主な事業計画	8
1. 東京純心大学	8
(1) 学部・学科ごとの事業計画	8
(2) センターごとの事業計画	12
(3) 委員会ごとの事業計画	22
2. 東京純心女子中学校・高等学校	41
3. 施設・設備	44
(1) 学園	44
(2) 大学	44
(3) 中高	44
4. 財務概要	45
(1) 資金収支予算書	46
(2) 事業活動収支予算書	47

I 法人の概要

1. 設置する学校・学部・学科等

(1) 東京純心大学

教育理念

「愛に根ざした真の知恵」 Sapientia In Caritate Fundata

カトリックの人類愛に根ざした教育理念に基づき、身につけた知識や技能をもって、他者のために尽くす愛が真の知恵です。本学の教育はこの「愛に根ざした真の知恵 “Sapientia in Caritate Fundata”」を備えた人を育てます。「マリアさま、いやなことは私がよろこんで」はその具体的な学園標語です。そのために「聖母マリアに倣う人格形成」、「真理の探究」、「国際社会にいきる教養の体得」を柱として、平和的国際社会と地域社会のよき担い手として、自己の可能性に挑戦し続け、普遍的かつ個性豊かな文化の創造と発展及び人類の福祉に貢献し、奉仕し得る人間の育成を目的としています。

聖母マリアに倣う人格形成

聖母マリアの徳に倣い、きよく、かしこく、やさしく、おごらずに、使命を誠実に全うする人を育てます。どのようなことにであっても、謙虚にこれを受けとめて、使命を果たした聖母マリアの姿はわたしたちの模範です。狭い価値観や規範にとらわれず、柔軟な寛い心で、他者や共同体のためにはたらくことができる人を育てます。

真理の探究

至上の価値である真理には、科学的真理もあれば宗教的真理、哲学的真理と、分野に応じて求めるべきさまざまな真理があります。しかし、至上の価値を求めてたゆまぬ努力を重ねる、探究の姿勢は同一です。永遠の価値を神に求めるカトリックミッション校として、本学の教育は、揺るぎない真理探究の姿勢を涵養し、芯の通った人に育てます。

国際社会にいきる教養の体得

国境や人種、思想・信条を超えて人々や事柄を理解し共感をもってかかわるためには、幅広い教養と柔軟な感性が求められています。本学の教養教育および感性教育をとおして、国際社会と地域社会の良き担い手となる感性豊かな人を育てます。

ディプロマポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

1. キリスト教の精神に基づいて、柔軟な寛い心で対人関係を形成し、協働できる。
2. 揺るぎない真理探究の姿勢を涵養し、物事を深く洞察できる。
3. 多文化共生社会の担い手として、豊かな知性と感性を身につける。
4. 専門分野の知識・技術を身につけ、地域社会において主体的に貢献できる。

現代文化学部 こども文化学科

現代文化学部こども文化学科では、建学の精神と教育理念に基づき、「愛に根ざした真の知恵」をもって、多様な文化・社会の中で生きる子どもの命を守り育てる保育者を育成します。

保育・教育の高度な知識と技能を身につけ、子どもの幸せと平和の実現のために多文化共生社会のなかで協働し、主体的に判断し表現できる資質を養います。

以上の教育目的に従って定めたこども文化学科の教育課程を履修して所定の単位を修め、下記の資質・能力を備えた者に卒業を認定し、学士(こども文化学)の学位を授与します。

1. 主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力と豊かな感性をもって表現し、協働することができる。
2. 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身につける。
3. こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。

看護学部 看護学科

1. キリスト教の精神を基調とし、かけがえのない存在である人間を尊び、よりよい人間関係を築くことができる。
2. 倫理的かつ的確な臨床判断のもと、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を身につけている。
3. 多様な社会に生きる対象者が、自分らしく生活できるよう看護を実践する能力を身につけている。
4. 看護専門職としての役割・責務を理解し、多職種と連携・協働する能力を身につけている。
5. 看護学の発展のために継続的に学び、看護を創造する能力を身につけている。

カリキュラムポリシー(教育課程編成・実施の方針)

本学では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、教育課程を「基礎科目」と「専門科目」で構成しています。

1. 「基礎科目」

- ・「基礎科目」では、本学の建学の精神及び教育理念を基盤として、常に平和に関心を示し、幅広い教養と豊かな人間性、倫理観をもとに、責任ある行動力を有した人材を育成するための科目群を構成しています。
- ・学部を越えて幅広い分野を横断的に学び、人類の文化や歴史、社会と自然、芸術に関する知識を理解し、専門教育を学ぶために必要な基礎知識を身につけるための科目群を構成しています。
- ・多文化共生社会の担い手となるために、異文化社会に関する意識や知識、英語を体系的に修得し、国境や人種、思想・信条を超えて多様な人々と協働できる人材育成のための科目群を構成しています。

2. 「専門科目」

- ・「専門科目」では、専門的な知識・技術、論理的思考力、実践力を育むことで、専門職業人の育成に必要な科目を体系的に編成しています。
- ・演習や実習等の実践的・体験的学習を通して専門的知識・技術を身につける科目群を構成しています。
- ・既習の知識・技術、経験等を活用し、自ら課題を見出し、課題解決に粘り強く取り組むことで、物事の意義や本質を探究していく方法を身につけ、論理的思考力、批判的思考力を高めます。

3. 授業形態

- ・授業形態は、思考力や判断力を育むために、グループワーク、グループディスカッション、PBL（問題解決型学習）、プレゼンテーション、フィールドワーク等の能動的学習方法（アクティブ・ラーニング）を積極的に取り入れ、双方向型の学びを重視した教育方法を実践します。

4. 学修成果の測定と評価

- ・学修成果の測定と評価は、シラバスの評価方法・基準をもとに、成績評価基準に従い厳正に行います。
- ・本学での教育の質を保証し、さらに高めていくために、教育の内容、方法、成果に対する組織的な評価及び検証を行います。

現代文化学部 こども文化学科

現代文化学部こども文化学科では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、教育課程を「基礎科目」と「専門科目」で構成しています。

1. 「基礎科目」

建学の精神と教育理念に基づき、常に平和に関心を示し、幅広い教養と豊かな人間性、倫理観をもって責任ある行動のとれる人材を育成するために、以下のような科目群で体系的に編成しています。

- ① 大学1・2年次の導入教育となる「現代文化セミナー」「純心チュートリアル」「アカデミック・ライティング」

「Humanities Basics」を卒業必修科目として開講します。

- ② 人文・社会科学、芸術、外国語、情報、スポーツ・健康、留学・インターンシップなどの選択科目を通して、主体的に真理を探究する姿勢を身につけ、深い洞察力和豊かな感性をもって表現し、協働することができる人材を育成します。

2. 「専門科目」

専門的な知識・技能、論理的思考力、実践力を育み、保育士資格・幼稚園教諭1種免許状取得に必要な科目を以下のような3つの柱（身につける力）にバランスよく配置し、入門期・発展期・実践期・探究期の学修段階を踏まえてカリキュラムマップに示す通り体系的に編成しています。

- ① 多文化共生社会の担い手として、こども文化・保育・教育全般への思考力・判断力を身につける。
- ② こども文化・保育・教育の専門的知識と技能を身につけ、地域社会において主体的に貢献することができる。
- ③ 保育・教育の実践を通して適切な態度を身につける。

3. 授業形態

- ① 感性教育の伝統を基に＜表現系科目＞に力を入れています。【思考力・判断力・表現力】——ピアノ・トーンチャイム・リトミック・造形・絵本・読み聞かせ・舞台表現
- ② 全人教育・リベラルアーツ教育の伝統を基に＜実践型科目＞でのアクティブラーニングに力を入れています。
【主体性・多様性・協調性】【知識・技能】——野外文化活動、言語文化海外実習、リベラルアーツ実習

4. 学修成果の測定と評価

シラバスの評価方法・基準をもとに成績評価基準に従い厳正に行い、学修評価はGPAに集約し、各学生のポートフォリオを活用しながらアドバイザーが修得単位数とともに適切な指導や助言を行います。

看護学部 看護学科

1. 豊かな知性と感性を磨き、能動的な学修態度を獲得するために、順序性に留意して科目をバランスよく配置している。人間尊重の精神に基づいた倫理性、人間理解、コミュニケーション能力などを培う「教養」群、科学的思考、科学的根拠に基づいた看護を実践するための基本的知識・技術・態度を修得する「専門」群、さらに自己管理能力、自律性を高めるための「発展」群を配置した教育課程を編成している。
2. 対象者の健康課題解決にむけた看護を行うために、課題解決技法および健康段階・発達段階に応じた専門知識や技術を身につけることができる。1～3年次に、生活者の視点から身体的・精神的・社会的側面を理解するために必要な知識・技術・態度を身につけることができる。また、文化や制度と健康に関与する理論な

ど、看護の基礎となる科目を配置している。4年次においては、既習の学びを統合して、継続的に学び、看護を創造することにつながる科目を配置している。

3. 看護を提供する多様な場の理解と、対象者とのコミュニケーション能力を養うために、1・2年次には、講義・演習の学びを活かした実習を段階的に配置している。3年次には、既習学修をもとに専門性の高い看護を学ぶために領域別実習を配置している。4年次には、学生個々の学修課題を明確にし、看護(学)の探求のために統合実習を配置している。また、多職種連携教育(IPE)を通してチーム医療を学ぶ科目を配置している。
4. 4年間を通じた学修形態として、能動的学習方法であるアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れている。的確な臨床判断に基づいた看護実践能力を高めるために、シミュレーション教育に代表される情報通信技術(ICT)などを積極的に活用している。また、自己省察力を高め、継続的に学修する能力を養うために、ラーニング・ポートフォリオを活用している。
5. 学修の成果は、課題レポート、演習への参加状況、筆記試験、実習前後の課題達成と実習中のディスカッション等を踏まえて、シラバスの学修目標に沿って適正に評価する。また、卒業研究の評価は、看護学における新たな課題の提起、計画的・継続的な探究姿勢、プレゼンテーションおよび最終成果物等を踏まえてシラバスの学修目標に沿って適正に評価する。

アドミッションポリシー(入学者受け入れの方針)

1. 求める学生像

本学は、高等学校の教育課程等を通じて、大学での修学に必要な基礎学力を有している学生で、次のような資質を備えている入学者を求めています。

- 1) 本学の建学の精神と教育理念に共感できる人
- 2) 人に関心を持ち、一人ひとりの人間を尊重できる人
- 3) 自らの目標に向かって、主体的に取り組むことができる人

2. 入学者選抜の基本方針

各学部・学科では、これらの人を受け入れるために、入学者に求める能力やその評価方法を「学力の三要素（知識・技能、思考・判断力・表現力、主体性・協働性など）」と関連付けて明示し、多面的・総合的な評価による選抜を実施します。

入学者選抜方法は、多様な人材を受け入れるために、一般選抜、総合型選抜、学校推薦型選抜、大学入学共通テスト利用選抜、特別選抜という、さまざまな入学者選抜の方式を採用しています。

3. 入学者選抜における「学力 3 要素」評価方法等

各学部・学科にて明示する。

現代文化学部 こども文化学科

現代文化学部こども文化学科では、高等学校の教育課程等を通じて、大学での修学に必要な基礎学力を有していることを条件としたうえで、建学の精神と教育理念を理解し、子どもの幸せと平和の実現に関心があり、子どもの命を守り育てる保育者としての専門的な知識と技能を習得して地域社会で生かそうとする人、具体的には、下記の適性、能力等を有する人を受け入れます。

1. あらゆるものごとに対して真摯に向き合いながら柔軟に思考し、他者とのコミュニケーションにおいて誠実で適切な判断のできる人。そのための基礎的な日本語力と文章表現能力を身につけている人。【思考力・判断力・表現力】

2. 心身ともに健康で、奉仕の心とそれを実現する体力を持ち、主体的に多様な人々と協働・参画・実践する人。自己研鑽にたゆまぬ努力をする人。【主体性・多様性・協調性】

3. 子どもの幸せと平和の実現に関心があり、子どもたちの命を守り育てることを探究し、保育および幼児教育の専門的な知識と技能を身につけようとする人。【知識・技能】

看護学部 看護学科

1. 求める学生像

本学は、高等学校の教育課程等を通じて、大学での修学に必要な基礎学力を有している学生で、次のような資質を備えている入学者を求めています。

- ① 本学の建学の精神と教育理念に共感できる人。
- ② 人に関心を持ち、一人ひとりの人間を尊重できる人。
- ③ 看護専門職をめざして、主体的に取り組むことができる人。

2. 入学者選抜の基本方針

各学部・学科では、これらの人を受け入れるために、入学者に求める能力やその評価方法を「学力の三要素（知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性など）」と関連付けて明示し、多面的・総合的な評価による選抜を実施します。

3. 入学選抜における「学力3要素」評価方法等

入学選抜試験における評価について

上記に基づき、入学者選抜の評価方法を次の通り定める。

本学の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学力の3要素「知識・技

能」「思考力・判断力・表現力」「協働・態度：主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を各区分の選抜方法により、多面的・総合的に評価する。

【学校推薦型選抜】

学校推薦型選抜は「指定校 3 区分」「公募」の 2 方式で実施する。

- ・学校長による推薦書、調査書、志願理由書においては、高等学校生活で発揮した学業成績、人物所見、課外活動等

- ・小論文においては知識・技能、思考力・判断力・表現力

- ・面接においてはコミュニケーション能力や表現力・態度・意欲、主体性・協調性

以上の 3 つの評価をもって総合的に判断する。

【一般選抜】

- ・学科試験による基礎学力（知識・技能）、論理的思考力、読解力、表現力等

- ・学校長による推薦書、調査書、志願理由書においては、高等学校生活で発揮した学業成績、人物所見、課外活動等

- ・面接においてはコミュニケーション能力や表現力・態度・意欲、主体性・協調性

以上の 3 つの評価をもって総合的に判断する。

【特別選抜（社会人・海外帰国生徒）】

- ・学校長による推薦書、調査書、志願理由書においては、高等学校生活で発揮した学業成績、人物所見、課外活動等

- ・小論文においては知識・技能、思考力・判断力・表現力

- ・日本語による面接においてはコミュニケーション能力や表現力・態度・意欲、主体性・協調性以上の 3 つの評価をもって総合的に判断する。

【大学入学共通テスト利用選抜】

- ・大学入学共通テスト成績による基礎学力（知識・技能）、論理的思考力、読解力、表現力等

- ・学校長による推薦書、調査書、志願理由書においては、高等学校生活で発揮した学業成績、人物所見、課外活動等

- ・面接においてはコミュニケーション能力や表現力・態度・意欲、主体性・協調性

以上の 3 つの評価をもって総合的に判断する。

(2) 東京純心女子中学校・高等学校

— 建学の精神 —

東京純心女子中学校・高等学校は「聖母マリアのように、神様にも人にも喜んでいただける、清く、賢く、優しい女性の育成」を目指しています。

— 教育理念・・・叡智・真心・貢献 —

東京純心女子中学校・高等学校は、生徒一人ひとりが神の愛を受けたかけがえのない存在であることを自覚し、叡智を養い、他者を真に思いやることを育み、社会に貢献すべく高い志をもち、自立した女性として、自己の可能性に挑戦してゆく力を身につけることができるよう、全力を尽くして教育に当たることを使命としています。

— 教育目標 —

教育理念に基づき、次の三つの力を生涯にわたって育む意志と行動力を備えた女性を育てます。

- ・ 誠実に考え、語り、行動できる人。(叡智)
- ・ 他者の心に寄り添うことができる人。(真心)
- ・ 平和を希求し、未来に貢献できる人。(貢献)

— 学園標語・・・建学の精神・教育理念・教育目標の具現化に向けて —

「マリアさま、いやなことは私が よろこんで」

2. 学生生徒 在籍状況

本学園の設置する学校の学生・生徒の在籍状況は以下の通りである。
(令和4年5月1日予定)

大 学	343名
現 代 文 化 学 部	
こ ども 文 化 学 科	61 名
看 護 学 部	
看 護 学 科	282 名
高 等 学 校	224 名
中 学 校	87 名
合 計	654 名

3. 役員・教職員の概要

本学園に勤務する役員・教職員は以下の通りである。
(令和5年5月1日予定)

役 員	9 名
専 任 教 員	87 名
専 任 職 員	33 名

Ⅱ 基本的取り組み

1. 東京純心大学の取り組み

新型コロナウイルス感染症の収束傾向が見えない中ではあったが、昨年度、本学はほぼ通常の教育活動を実施することが出来た。昨年度、課題として挙げた項目の内、教育改革事業では、IR機能の充実、高大連携、成績評価の平準化等は順調に推移している。また学生数確保の方策として掲げた保健師課程は令和4年度より開設することが出来た。

さらに事務部門の改変を行い、アドミッション・オフィス機能を持つ部署として入試広報課を新たに独立させた。また、学生数の減少傾向が止まらなかった学部については令和5年度から学生募集停止に踏み切ると同時に併設学部の定員増を計った。

以上の如く、令和4年度の課題として掲げた項目は順調に推移していると言える。

令和5年度の最大の課題は、本学の教育事業に対する公的機関の認証評価をパスすることである。もちろん、この評価は必須の事ではあるが、これ自体が本学教育の目的ではなく、本年度も昨年に課題として挙げた項目のさらなる推進が必須である。

(1) 教育改革の継続を図る。

- ①IR機能をさらに充実させる。
- ②高大連携を強化する。
- ③知識、情報の伝達におけるICT環境を整備する。
- ④大学教育に関する認証評価を受ける。

(2) 学生数を確保し、定員充足率の向上のため、広報活動のスタッフを増員し、学生募集活動を継続して強化する。

- ①入学者選抜試験方法を多様化し、志願者数をさらに増加させる。
- ②入試広報活動をさらに強化する。

(3) 大学機能の効率化を図る。

- ①各種委員会を機能別に整理し、部門化し、各種委員会の方針を共有化する。
- ②各部署、各種委員会の事業計画、報告書を統一し、大学の方針を明確にする。

(4) 大学の財務状況の改善にむけ、予算の効率的配分をさらに推し進める。

以上が令和5（2023）年度取り組むべき項目である。教育改革（内容・方法の見直し・教育効果の検証）、学生募集の強化、事業の効率化、予算の効率的配分、これらの結果としての財務状況の改善等は必ず実現しなければならない。特に、目標とした学生数の確保の為には広報活動の強化は不可欠であり、本学の教育の特徴を外部に発信できる様、教職員が共通の認識を持つことを期待したい。

2. 東京純心女子中学校・高等学校の取り組み

現代社会において、カトリック学校の存在意義といえば、人間は神につくられた尊い存在であるという自覚をもった生徒たちが、社会に出て周りの人に貢献し、世に光を照らしていくことである。単に知識や能力があるというわけではなく、本当の意味での知恵を身に着け、どこへ行っても喜ばれる人になってほしい。

校名となっている「純心」は聖母マリアの心を表している。「マリアのような、愛に基づく優しさや賢さ、強さをもって平和な未来に貢献できる人」、つまり、自律的、主体的に貢献できる人を育てたいと考える。神から与えられている自分のミッションを知り、与えられた力を伸ばし、神に喜ばれ、人に貢献できる喜びを、「学び」と「体験」を通して知ってほしい。

令和5年度より本校は大胆に学校改革を推し進める。カトリック学校として建学の精神を大切にしながらも、今求められている「生徒一人ひとりに合わせた学び」と、カトリック学校ならではの「人や自然、命と直接的なふれあいができる」学びと体験の両方を用意した、新しい学校に進化させる。

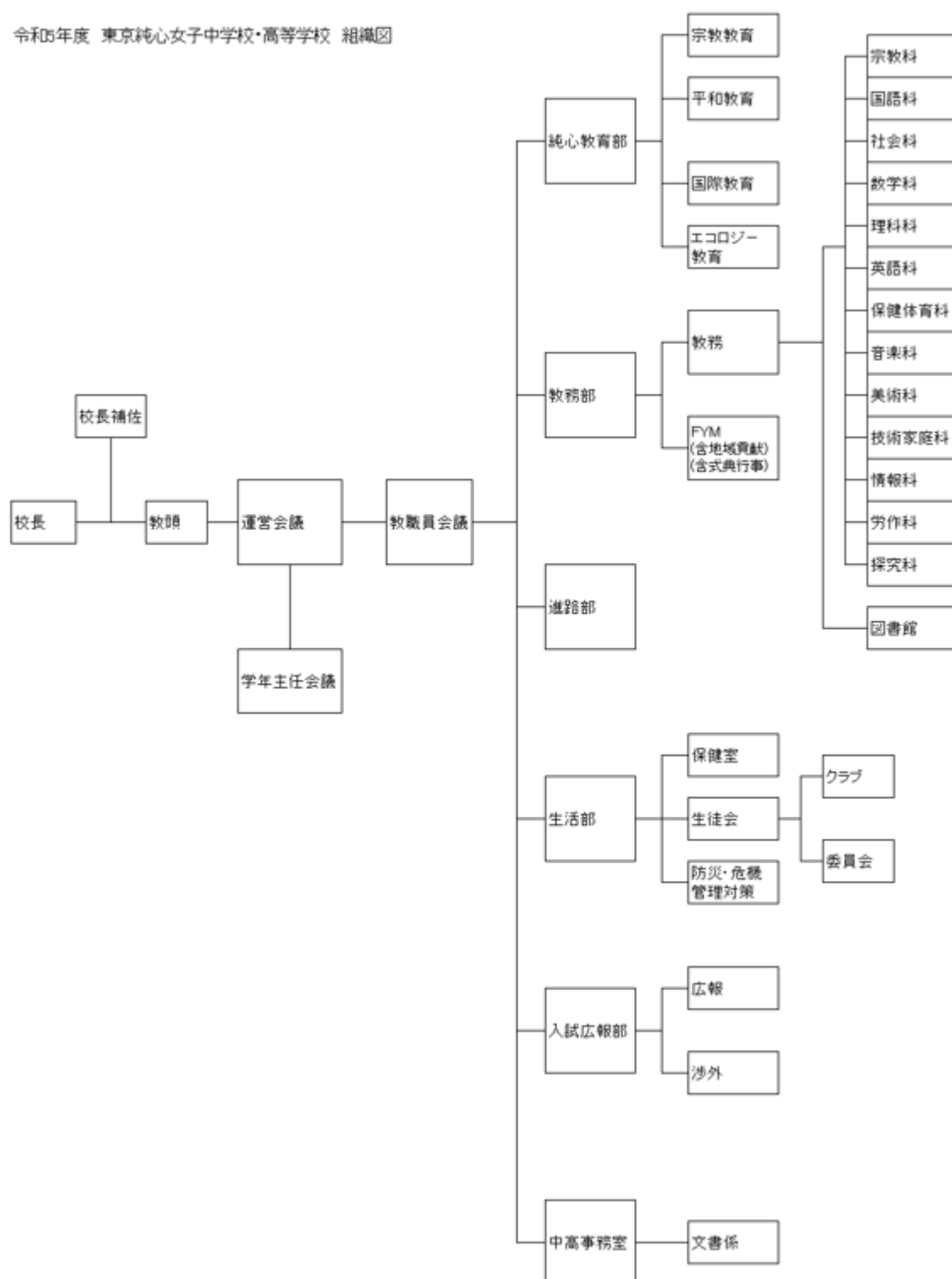
具体的には、午後1時に正課の授業を終え、その後の放課後の時間に様々な体験ができる「FYM (Find Your Mission)」を始動する。例えば高大連携をしている大学の専門的な研究に触れ実験を体験したり、講義を受けたりする。また自分たちで育てた農作物を売ったり、ボランティアに参加したり等、様々な学習プログラムや体験プログラムに参加することができる。

また留学や探究活動にも力を入れ、不確かな外部環境に振り回されず、主体的に、幸せに生きる力を生徒に身につけさせたい。他者や世界との連帯意識を持ち、各自のタラントを活かして、自分が生まれてきた固有の使命を果たす意識を持ってもらいたい。

すべての教育活動を有機的に展開していくために、各分掌の連携を強めていく。昨年度より開設した「純心教育部」における宗教教育、平和教育、国際教育、エコロジー教育を、留学や「平和の旅人」、労作などの活動を通してより活性化、具体化させる。

またこれまで強化してきた英語教育に加えて、「理系の純心」を打ち出し、生徒たちがコロナ渦後の社会により具体的に貢献していくための道筋として、理系に強い生徒を育てる。教務部、進路指導部主導で、内部の教育力を高めていく。

令和5年度 東京純心女子中学校・高等学校 組織図




Ⅲ 主な事業計画

1. 東京純心大学

(1) 学部・学科ごとの事業計画

【現代文化学部こども文化学科】

1 令和4年度における課題（継続）

・特になし

1-2 令和5年度における新たな課題(新規)

(1) 在学生の履修指導と保育士資格及び幼稚園教諭免許状取得指導の徹底

2 上記1及び1-2を踏まえた令和5年度の事業計画(目標)-P-

(1) 「純心こどもの国のクリスマス」の開催

(2) 幼保の核となる領域・科目における教員の確保

(3) 「保育フィールドワーク」の開講とそのフィードバック

(4) 「叡知探求セレクトデザインプログラム」の開講

(5) (新) 在学生の履修指導と保育士資格及び幼稚園教諭免許状取得指導の徹底

3 上記2を踏まえた年間の実施予定事業 -D-

(事業計画名(1) 「純心こどもの国のクリスマス」の開催)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	大竹聖美	12月	「純心こどもの国のクリスマス」の開催

(事業計画名(2) 幼保の核となる領域・科目における教員の確保)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	増田光	通年	欠員が出た際に適切な教員を確保

(事業計画名(3) 「保育フィールドワーク」の開講とそのフィードバック)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	田尻真理子	前期・後期	「保育フィールドワーク」の開講

(事業計画名(4) 「叡知探求セレクトデザインプログラム」の開講)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	増田光	4月～12月	叡知探求セレクトデザインプログラムの開講

(事業計画名(5) 在学生の履修指導と保育士資格及び幼稚園教諭免許状取得指導の徹底)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	大竹聖美	前期・後期	ガイダンスにて指導し、履修登録をさせる。

4 その他(特記事項)

- ・特になし

【看護学部看護学科】

1 令和4年度における課題(継続)

- (1) 中長期計画を遵守した教育の質を担保するための予算確保およびローコストでの教育改善の工夫を継続する。
- (2) 旧カリキュラム、現行カリキュラム、新カリキュラムに伴って発生する、科目読替えについて、検討する。カリキュラムマップ、ツリーを用いて、体系的な教育課程の検証を行う。
- (3) 学科の全面協力の下、看護師国家試験対策・進路指導委員会を中心に4年間に渡り計画的な学習支援を行う。評価を行い次年度に活かす。後援会および学部の予算は確保しているが、効果的な運用を再考する。
- (4) 定員不足の領域の教員継続的に公募する。JRECINや人脈を駆使し、本大学の組織運営及び教育方針を理解した適格な教員採用を行う。
- (5) FD・SD 委員会を中心に授業評価アンケートの回答率をあげる対策を企画・実施する。また、教員間の授業参観などによる Peer Review の実質化について企画・実施する。Teaching Portfolio Workshop の開催を継続する。

1-2 令和5年度における新たな課題(新規)

- (1) 新カリキュラムに伴い、2年次生の科目調整と共にシラバス確認作業をする。
- (2) 学部編入について検討し、決定事項を踏まえ運用の準備をする。
- (3) ICTを活用した教材を開発する。

2 上記1及び1-2を踏まえた令和5年度の事業計画(目標)-P-

- (1) 看護教育課程の教育内容の向上
 - ①看護学部3P(令和4年度版)の見直し
 - ②令和5年度看護師教育課程の改訂による旧・現・新カリキュラム科目の読替え検討
 - ③保健師教育課程の令和5年度の運用
 - ④学生の単位修得への学習支援
 - ⑤ICTを活用した教材開発の検討
- (2) 教員の教育・研究能力の向上
 - ①科研費など外部の研究助成金の積極的獲得
 - ②教員の教育力向上のための研修実施
 - ③共同研究費助成金制度活用による他領域との共同研究実施
- (3) 国家試験対策への支援
 - ①国家試験全員合格のための学修支援強化
 - ②学生による学年横断的・縦断的ピアサポート支援
 - ③国試対策補講の強化
- (4) 確実な入学者数の確保
 - ①広報委員との連携
 - ②指定校受験生への入学後の支援
 - ③東京純心高校との連携強化
 - ④学部編入科目・単位数の検討

- (5) 学部の必要経費の効率的運用
- ①学部備品の効率的な管理
 - ②外部講師の適切な活用
 - ③ムダのない消耗品管理
- (6) 八王子市他大学との相互連携による継続的な活動推進
- ①八王子市との相互事業展開
 - ②八王子への地域貢献
 - ③八王子コンソーシアム加入大学との連携活動
- (7) 学生の看護専門職キャリアデザインの確立への支援
- ①個人の成長、キャリアデザイン確立への支援
 - ②卒業生と1・2・3・4年次学生の交流会

3 上記2を踏まえた年間の実施予定事業 -D-

(事業計画名(1) 看護教育課程の教育内容の向上)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実 施 内 容
①	未定	9月～10月	①-1 看護学部3P(令和4年度版)見直し・作成 ①-2 学部会検討・完成 ①-3 運営・教授会での承認・公表
②	未定	4月～10月	②-1 カリキュラム改訂による科目読替え ②-2 DPと科目マトリックス作成妥当性確認 ②-3 学年制度の運用
③	未定	4月～2月	③-1 保健師教育課程運用 ③-2 DPと科目マトリックス見直し ③-3 保健師課程選抜制試験実施 ③-4 保健師課程運用にむけた教育環境整備
④	未定	4月～5月 9月～10月	④-1 旧・現・新カリ調整(読替) ④-2 履修登録・状況把握 ④-3 アドバイザー制度の強化 ④-4 基礎学力支援センターと情報交換 ④-5 学生への支援体制等について保護者への情報発信 ④-6 国家試験対策への学生支援
⑤	未定	4月～3月	⑤-1 ICTを活用した教材開発の検討

(事業計画名(2) 教員の教育・研究能力の向上)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実 施 内 容
①	未定	4月～9月	①-1 研究計画書作成の支援 ①-2 学内研修会参加 ①-3 研究初学者の授業参加
②	未定	4月～1月	②-1 FD・SD委員会主催研修会の参加 ②-2 大学教育の基本・教授方法の研修会企画・運営
③	未定	4月～5月	③-1 共同研究の募集・審査・承認 ③-2 共同研究実施の報告・決算・報告会

(事業計画名(3) 国家試験対策への支援)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実 施 内 容
①	未定	5月～3月	① - 1 各学年の国試対策計画立案・実施・評価 ① - 2 予算の適切な執行 ① - 3 次年度予算確保
②	未定	4月～3月	② - 1 進学に関する情報交換会開催 ② - 2 学生交流会開催
③	未定	10月～1月	③ - 1 聖マリアンナ医科大学医師による計画的補講 ③ - 2 専任教員による計画的補講

(事業計画名(4) 確実な入学者の確保)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実 施 内 容
①	未定	4月～3月	① - 1 模擬授業の実施 ① - 2 出張講座 ① - 3 在学生による母校への情報発信 ① - 4 IPの充実：入試情報・学生の成長・教育活動・社会活動等の情報発信等 ① - 5 高校教員へのPR ① - 6 中高教員・高校生・中学生・中学OPC来場小学生
②	未定	4月～3月	② - 1 高校の科目「叡智探究セレクトコース」開講 ② - 2 多摩地区高等学校進路指導協議会への参加 ② - 3 中高学園祭の説明会開催 ② - 4 卒業生である学生の活用
③	未定	4月～3月	③ - 1 学園内との連携強化
④	未定	4月～3月	④ - 1 学部編入科目・単位数の検討

(事業計画名(5) 学部の必要経費の効率的運用)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実 施 内 容
①	未定	8月～12月	① - 1 学部備品のリストアップと共有(有効活用) ① - 2 学部備品の予算化
②	未定	8月～11月	② - 1 外部講師の学部長への申請制度の運用 ② - 2 科目責任者の調整・決定
③	未定	4月～3月	③ - 1 ペーパーレス化の徹底 ③ - 2 白黒コピーの原則化

(事業計画名(6) 八王子市他大学との相互連携による継続的な活動推進)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実 施 内 容
①	未定	4月～3月	① - 1 ほんわかサロンの参画 ① - 2 センター元気メンバーとの協働連携(学園祭)

			① - 3 八王子市医療連携定例会への参加 ① - 4 八王子コンソーシアム主催のイベントと参加
②	未定	4月～3月	② - 1 公開講座・イチョウ塾講座の開講
③	未定	4月～3月	③ - 1 八王子コンソーシアム単位互換科目提供 ③ - 2 学会発表会参加

(事業計画名(7) 学生の看護専門職キャリアデザイン確立への支援)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実 施 内 容
①	未定	4月～3月	① - 1 学修ポートフォリオの運用状況の把握と課題抽出 ① - 2 社会人基礎力調査結果の学生へのフィードバック ① - 3 PROGテストの実施と活用支援 ① - 4 ディプロマ・サプリメントの検討(学部) ① - 5 卒業生と1・2・3・4年次学生の交流会

4 その他(特記事項)

特になし

(2)センターごとの事業計画

..... **【現代文化学部 こども教育実践研究センター】**

- 1 令和4年度における課題 (継続)
・特になし

- 1-2 令和5年度における新たな課題(新規)
(1) トーンチャイム・絵本などの教育資源を活用した地域貢献事業継続の検討

- 2 上記1及び1-2を踏まえた令和5年度の事業計画(目標)-P-

- (1) 学術的貢献:学部教員の学術研究活動支援
 ①特任教員のresearchmap活用
 ②非常勤講師を含む学部教員の科研費等研究助成金獲得支援、紀要執筆支援
 (2) 地域貢献
 ①公開講座

* 新型コロナウイルス感染症拡大のため、令和3年度は学内学生限定で実施となったが、令和4年度は地域に向けて公開することができた。令和5年度も地域に公開したい。

- ②あきる野市一の谷児童館トーンチャイム指導、加住地区等地域自治体、地域保育所、施設、地域高校等教育機関との連携

- 3 上記2を踏まえた年間の実施予定事業 -D-

(事業計画名(1) 学術的貢献:学部教員の学術研究活動支援)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実 施 内 容
----	-------	--------	---------

①	大竹聖美	通年	特任教員のresearchmap活用
②	大竹聖美	通年	非常勤講師を含む学部教員の科研費等研究助成金獲得支援、紀要執筆支援

(事業計画名(2) 地域貢献)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	大竹聖美	6月, 11月 1月	公開講座
②	田中路	通年	あきる野市一の谷児童館トーンチャイム指導、加住地区等地域自治体、地域保育所、施設、地域高校等教育機関との連携

4 その他(特記事項)

- ・特になし

..... 【看護教育実践研究センター】

1 令和4年度における課題 (継続)

- (1) 実習施設の実習指導者との連携、聖マリアンナ医科大学病院の臨床教員との連携を強化し、各看護学実習の目的・目標を達成し、学生のレディネスに合わせた実習指導者ならびに看護教員の指導力を高めることが課題である。
- (2) 臨地実習においては、新型コロナウイルス感染症の現状に合わせた感染予防対策マニュアルならびに実習直前の新型コロナウイルス感染症の検査キットの準備等、引き続き実習環境の調整が課題である。
- (3) 社会貢献事業においては事業数が2件と少なく、看護教員の専門性を生かした事業数を増やすことが課題である。

1-2 令和5年度における新たな課題 (新規)

- (1) 令和4年度に引き続き、新カリキュラムの目的・目標に合わせた実習環境の調整が課題である。
- (2) 基礎看護学領域の実習では、基礎看護学領域以外の教員が実習指導を担当する。各看護学実習の目的・目標を達成し、学生のレディネスに合わせた指導力を強化することが課題である。
- (3) 大学コンソーシアム八王子の学生発表会の研究支援が課題と言える。

2 上記1及び1-2を踏まえた令和5年度の事業計画(目標)-P-

- (1) 現行カリキュラムの実習目的・目標に合わせて実習環境の調整
- (2) (新)新カリキュラムの実習目的・目標に合わせて実習環境の調整
- (3) 新型コロナウイルス感染症の現状に合わせたマニュアル等の見直し
- (4) 臨床側との連携強化、実習指導体制の強化
- (5) 看護教員の専門性を生かした地域貢献事業の増加
- (6) (新)大学コンソーシアム八王子の学生発表会の研究支援

3 上記2を踏まえた年間の実施予定事業 -D-

(事業計画名(1) 現行カリキュラムの実習環境の調整)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	センター長 副センター長	4月～3月	聖マリアンナ医科大学実習運営部会の企画・調整：年3回
②	基礎・成人・ 老年・母性・小	同上	聖マリアンナ医科大学病院実習指導者会の企画・調整 第1回：統合実習 第2回：専門領域看護学実習

	児・精神領域		第3回：実習評価会議
③	基礎・成人・ 老年・小児領域	同上	聖マリアンナ医科大学病院 臨床教員との実習調整
④	成人・老年・母 性・小児看護学 領域	同上	川崎市立多摩病院との実習調整
⑤	成人・母性看護 学領域	同上	聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院との実習調整
⑥	在宅看護学領域	同上	東海大学医学部付属八王子病院との実習調整
⑦	在宅看護学領域	同上	東京医科大学八王子医療センターとの実習調整
⑧	精神看護学領域	同上	高月病院・多摩病院・円施設との実習調整
⑨	小児看護学領域	同上	保育園との実習調整
⑩	老年看護学領域	同上	高齢者施設との実習調整
⑪	在宅看護学領域	同上	訪問看護ステーション・地域包括支援センター等実習調整
⑫	全領域	4月～12月	基礎看護展開・技術実習、専門領域看護学実習、統合実習等オリエンテーションの準備(各専門領域)

(事業計画名(2) 新カリキュラムの実習環境の調整)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	在宅看護学領域	4月～3月	暮らしの理解体験実習施設との実習調整
②	基礎看護学領域	同上	基礎看護展開実習・基礎看護技術実習施設との実習調整

(事業計画名(3) 看護学実習要綱(共通編)ならびに感染予防対策マニュアルの改訂と衛生物品の購入等)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	各領域	4月～3月	2023年度看護学実習要綱(共通編)の作成 2024年度看護学実習要綱(共通編)の作成
②	助教・助手	同上	衛生物品の準備

(事業計画名(4) 臨床側との連携強化、実習指導体制の強化)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	基礎・成人・ 老年・小児領域	4月～3月	実習指導に関する研修会

(事業計画名(5) 地域貢献事業)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	戸塚(智)・小濱 福永	4月～3月	「ほんわかサロン(がんサロン)」
②	時田	同上	みんなでつながろう！「出産前後のハテナを助産師と解決」
③	戸塚(智)	同上	八王子市地域医療連携看護師会
④	戸塚(智)	同上	八王子センター元気(高齢者ボランティア団体)

(事業計画名(6) 八王子コンソーシアム学生発表会研究支援)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	各領域	4月～12月	八王子コンソーシアム学生発表会の研究支援

4 その他(特記事項)

・特になし

..... 【地域共創センター】

1 令和4年度における課題 (継続)

- (1) 講座提供講師の人数増加。
- (2) 前年度の反省を今後に生かすための具体策。
- (3) 地方公共団体及び地域の公的機関または団体に対してどのような関わり方を進めるか検討の必要がある。

1-2 令和5年度における新たな課題(新規)

・特になし

2 上記1及び1-2を踏まえた令和5年度の事業計画(目標)-P-

- (1) 地域住民に向けて生涯学習を目的とした講座提供
- (2) 地域共創センター会報の発行
- (3) 地方公共団体及び地域の公的機関または団体に対して、講師の派遣及び各種文化事業の支援

3 上記2を踏まえた年間の実施予定事業 -D-

(事業計画名(1) 地域住民に向けて生涯学習を目的とした講座提供)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	未定	4月～10月	公開講座運営業務(広報・受付など)
②		10月～2月	地域共創センター主催(共催含む)公開講座及び八王子学園都市大学いちょう塾提供講座の準備

(事業計画名(2) 地域共創センター会報の発行)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実 施 内 容
①	未定	5月	大学HPにて発行(令和4年度版)
②		5月～7月	企画及び準備
		8月～2月	原稿等編集作業
		3月	校正
		令和6年5月	大学HPにて発行

(事業計画名(3) 地方公共団体及び地域の公的機関または団体に対して、講師の派遣及び各種文化事業の支援)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
③	未定	4月～3月	地方公共団体及び地域の公的機関または団体からの依頼に対し対応する。

4 その他（特記事項）

特になし

..... 【キリスト教文化研究センター】

1 令和4年度における課題（継続）

- (1) ミサの開催(6回)
ミサが開催できない場合の手段を検討する。
- (2) 建学の精神の浸透(創立記念行事、長崎原爆の日を伝える学内放送等)
動画視聴回数からは浸透しているとは考えにくい。
- (3) 刊行物(『純心のこころ』『カトリコス』『Newsletter』グリーティングカード)発行
配付だけでなく、読んでもらうような工夫が必要。『カトリコス』は機関リポジトリ化が必要
- (4) 文化芸術系事業(レクチャーコンサート、クリスマスチャリティオルガンコンサート2022)
感染症対策を整え観客を動員したコンサートを実現したい。またオンラインとなった場合でも充実した文化芸術事業とする。
- (5) 学術・教養系事業(シンポジウム)
感染症対策を整え観客を動員したシンポジウムを実現したい。またオンラインとなった場合でも、充実した学術・教養事業とする。
- (6) 学内外の研究機関等との連携
- (7) 「純心を知ろう」の開催
学生や教職員が各々自身の言葉で「純心」を語れるような働きかけを強化する。
- (8) SDGsの実践
キリスト教精神はすでにSDGsを実践していることの確認と表現。

1-2 令和4年度における新たな課題(新規)

2 上記1及び1-2を踏まえた令和5年度の事業計画(目標)-P-

- (1) ミサの開催(6回)
- (2) 建学の精神の浸透(創立記念行事、長崎原爆の日を伝える学内放送等)
- (3) 刊行物(『純心のこころ』『カトリコス』『Newsletter』グリーティングカード)発行
- (4) 文化芸術系事業(レクチャーコンサート、クリスマスチャリティオルガンコンサート2023)
- (5) 学術・教養系事業(シンポジウム)
- (6) 学内外の研究機関等との連携
- (7) 「純心を知ろう」の開催

3 上記2を踏まえた年間の実施予定事業 -D-

(事業計画名(1) ミサの開催(6回))

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	支援シスター 図書・研究支援課	4月, 5月 7月, 11月 1月, 3月	新入生歓迎ミサ, 創立記念感謝のミサ、前期感謝のミサ、 追悼ミサ、成人感謝のミサ、卒業感謝のミサ

(事業計画名(2) 建学の精神の浸透)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	図書・研究支援課	4月	『純心のこころ』配付、学章バッジの配付
②	図書・研究支援課	5月	創立記念行事の開催(記念品配布)
③	図書・研究支援課	8月	長崎原爆の日を伝える学内放送

④	図書・研究支援課	3月	卒業記念メダルの配付
---	----------	----	------------

(事業計画名(3) 刊行物(『カトリコス』『Newsletter』『純心のこころ』グリーティングカード)発行)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	図書・研究支援課	4月	グリーティングカード作成、配布
②	図書・研究支援課	1月	純心のこころ増刷
③	図書・研究支援課	2月	Newsletter発行
④	図書・研究支援課	3月	カトリコス発行

(事業計画名(4) 文化芸術系事業(レクチャーコンサート、クリスマスチャリティオルガンコンサート2023))

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	図書・研究支援課	10月	レクチャーコンサート開催
②	図書・研究支援課	12月	クリスマスチャリティオルガンコンサート2023開催

(事業計画名(5) 学術・教養系事業(シンポジウム))

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	図書・研究支援課	10月	シンポジウム開催

(事業計画名(6) 学内外の研究機関等との連携)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	図書・研究支援課	6月	カトリック大学キリスト教文化研究所連絡協議会への参加

(事業計画名(7) 「純心を知ろう」の開催)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	図書・研究支援課	5月～2月	見学会、勉強会、お話会等の実施

4 その他(特記事項)

- ・上記事業計画(1)～(7)はSDGsへの取り組みを内在している。

【健康サポートセンター】

1 令和4年度における課題(継続)

(健康サポートセンター)

- 定期健康診断及の円滑な実施、および、健診後の確実なデータ管理と適切な指導・助言。
 - ・健診結果に伴う保健行動の促しや指導をタイムリーに行う。
 - ・健診結果をとりまとめ、臨地実習に必要な抗体価等のデータ一覧作成を行う必要がある。
- 応急処置、救護支援の実施の必要性。
 - ・体調不良時、受傷時の対応、救急車要請を行う。
 - ・必要物品の確認および準備。
- 疾病予防、罹患時の対処等に関する相談、助言、感染症対策等への啓蒙活動が求められている。
 - ・フェーズに合わせ、妥当な知識と予防策を指導する。
 - ・疾病罹患の際の相談に応じ、必要があれば助言お行い、速やかな回復への支援を行う。
- メンタルヘルスに関する相談、傾聴、助言の必要性が増している。

- ・カウンセリング室の活用と合わせ、学修継続を目指した保健室ができる関りを行う。

(カウンセリング・ルーム)

(5) カウンセリングの実施と活用

- ・円滑なカウンセリングおよび教職員コンサルテーションの実施。

1-2 令和5年度における新たな課題(新規)

(健康サポートセンター)

- (1) 慢性疾患をもつ学生に対し関わる必要性が更に増している。

(カウンセリング・ルーム)

- (2) 個別相談に深刻なものがあり、極めて慎重な対応が求められることがある。

2 上記1及び1-2を踏まえた令和5年度の事業計画(目標)-P-

(健康サポートセンター)

- (1) 定期健康診断、及び健診後のデータ管理、指導・助言
- (2) 応急処置、救護支援の実施
- (3) 疾病予防、罹患時の対処等に関する相談、助言、感染症対策等への啓蒙活動の実施。
- (4) メンタルヘルスに関する相談、傾聴、助言。

(カウンセリング・ルーム)

- (5) 円滑なカウンセリングおよび教職員コンサルテーションの実施

3 上記2を踏まえた年間の実施予定事業 -D-

(事業計画名(1) 定期健康診断、及び健診後のデータ管理、指導・助言)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実 施 内 容
①	牟田	4月～10月	—定期健診前と後の準備— ・健診準備、計画、他の準備(業者との打ち合わせ) ・健診時カードの管理、尿器などの配布 ・結果をふまえた再検査、必要な予防接種についての説明とその結果のとりまとめ等 ・教職員の定期健診の準備、要再検結果の産業医への提出
②	牟田	4月～10月	—定期健診後のデータ管理— ・健診結果データの管理、臨地実習に要する書類作成等
③	牟田	通年	—定期健診の結果をふまえた保健指導— ・持病に関する相談、健康上の問題点に関する相談等

(事業計画名(2) 応急処置、救護支援の実施)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実 施 内 容
①	牟田	通年	—応急処置— ・体調不良、受傷への対応 ・必要時救急車の要請
②	牟田、荻原	通年	—緊急時の対応について— ・必要物品の確認および準備 ・フローの作成と活用、周知

(事業計画名(3) 疾病予防、罹患時の対処等に関する相談、助言、感染症対策等への啓蒙活動の実施)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実 施 内 容
①	牟田、荻原、田尻、本田、宗定、高山、伊藤	通年	あらゆる感染症に関する知識と予防策に関する教材を用いた指導
②	牟田、荻原、田尻、本田、宗定、高山、伊藤	通年	当事者からの報告、相談、連絡、への対応
③	牟田、荻原、田尻、本田、宗定、高山、伊藤	通年	疾病罹患の際の相談、助言を行う

(事業計画名(4) メンタルヘルスに関する相談、傾聴、助言)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実 施 内 容
①	牟田	通年	—保健室でできるケアを行う— ・カウンセリング室の活用と合わせ、学修継続を目指した(保健室ができる)関りを行う。

(事業計画名(5) 円滑なカウンセリングおよび教職員コンサルテーションの実施)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実 施 内 容
①	増倉、望月	通年	—カウンセリング実施および教職員コンサルテーションの実施— ・カウンセリングの実施、コンサルテーションの実施
②	増倉、望月	通年	—カウンセリングに出向きやすい環境等の整備— ・カウンセリングルームへの(からの)必要な情報の伝達 ・ルーム環境、その他の要因の検討、改善を行う ・担当者間の、報告・連絡・相談を行う

4 その他 (特記事項)

特になし

【基礎学力支援センター】

1 令和4年度における課題 (継続)

- (1) 特別補習授業の成果可視化
 - ・出席率向上対策を講じる。
 - ・入学前課題の自己採点結果の未提出者に対する対応を検討する。
 - ・基礎学力試験問題の検討を行う(特別補習授業担当講師への試験問題作成を依頼する)。
- (2) 学力向上支援体制の構築
 - ・新たに加えられた国語の特別補習授業の検証を行う。

1-2 令和5年度における新たな課題(新規)

- (1) 特別補習授業の出席率の向上対策
- (2) 特別補習授業のICT化

2 上記1及び1-2を踏まえた令和5年度の事業計画(目標)-P-

- (1) 特別補習授業の成果の可視化
 - ①入学前課題の効果の検証を行う。

- ②基礎学力試験を入学後に実施し、補習授業対象学生を選抜する。
- ③令和5年度の新規基礎学力問題の難易度を検証する。

(2) 学力向上支援体制の構築

- ①特別補習授業の効果の検証は前期補習授業後に入学後の基礎学力試験問題と同一の問題を用いて行う。
- ②前期特別補習授業終了後に特別補習授業に関するアンケート調査を実施する。
- ③前期特別補習授業終了後に担当教員との懇談会を開催する。

(3) 特別補習授業の出席率の向上対策

- ①アドバイザーを通じて出席率の低い学生に対し出席を促す。
- ②オリエンテーションのときに特別補習授業の重要性を説明する。
- ③特別補習授業 I C T 化の検討を行う。

3 上記2を踏まえた年間の実施予定事業 -D- (事業計画名(1) 特別補習授業の成果の可視化)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	吉田	5月～6月	入学前課題の効果の検証を行う
②	全員	4月	基礎学力試験を入学後に実施し、補習授業対象学生を選抜する。
③	全員	5月～6月	新規基礎学力問題の難易度を検証する。

(事業計画名(2) 学力向上支援体制の構築)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	吉田	7月	全科目の特別補習授業の効果の検証を行う。
②	全員	7月	特別補習授業に関するアンケート調査を実施する。
③	全員	9月	前期授業終了後に補習授業担当教員との懇談会を行う。

(事業計画名(3) 特別補習授業の出席率の向上対策)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	高橋、南	4月～6月	出席率の低い学生に対して、アドバイザーへ出席の促しの依頼を行う。
②	全員	4月	オリエンテーションのときに特別補習授業の重要性を説明する。
③	全員	4月～9月	情報収集と内容検討

4 その他（特記事項） 特になし

【教養教育室】

1 令和4年度における課題（継続）

- (1) 両学科共通科目（「人間とアート」「Science Basics」「Humanities Basics」）の内容を更に充実させるため、委員会での内容についての検討をする。
- (2) 学部を超えて提供する「リベラルアーツ教育」として「読書推進プロジェクト」を始動させた

が、学内に十分浸透していない状況である。今後委員会で「読書推進プロジェクト」を浸透させるための方策を検討する。

1-2 令和5年度における新たな課題(新規)

- (1) (新)国際交流事業が加わったことに伴う看護学科単位付留学プログラムの検討

2 上記1及び1-2を踏まえた令和5年度の事業計画(目標)-P-

- (1) (新)「純心読書推進プロジェクト」の継続
(2) (新)国際交流事業
(3) 両学科共通科目(「人間とアート」「Science Basics」「Humanities Basics」)のさらなる充実

3 上記2を踏まえた年間の実施予定事業 -D-

(事業計画名(1)「純心読書推進プロジェクト」の継続)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	委員全員	4月～5月	前年度企画の改善策を検討、オリエンテーションで説明。
②	委員長・副委員長	5月	学協会・学科会においてプロジェクト協力の依頼

(事業計画名(2) 国際交流事業)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	委員長・副委員長	4月	オリエンテーションにて海外留学について説明
②	担当者・事務担当	5月, 10月	留学説明会の実施、留学経験者の発表会
③	担当者・事務担当	4月～3月	看護の単位付留学プログラムの検討

(事業計画名(3) 両学科共通科目(「人間とアート」「Science Basics」「Humanities Basics」)のさらなる充実)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	担当教員	4月～3月	両学科共通科目担当者との打合せ

4 その他(特記事項)

特になし

【保健師課程】

1 令和4年度における課題 (継続)

- ・特になし

1-2 令和5年度における新たな課題(新規)

- (1) 選抜試験に向けた体制整備
(2) 保健師課程の教育の質の確保
(3) 実習室の整備

2 上記1及び1-2を踏まえた令和4年度の事業計画(目標)-P-

- (1) 滞りない保健師課程の選抜試験の実施
(2) 保健師課程の教育の質の確保と本格的な開設に向けた準備
(3) 実習室の整備

3 上記2を踏まえた年間の実施予定事業 -D-

(事業計画名(1) 滞りない保健師課程の選抜試験の実施)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	戸塚・渡辺	4月, 9月	ガイダンス・説明会の実施
②	戸塚・渡辺	5月～11月	選抜試験要項、受験票、合格通知の準備
③	戸塚・渡辺	12月～2月	選抜試験申し込み、受験票配布、選抜試験の実施
④	戸塚・渡辺・学務課	2月	合格判定・学部会・教授会の承認・合格発表・手続き

(事業計画名(2) 保健師課程の教育の質を確保と本格的な開設に向けた準備)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	戸塚・渡辺	4月～3月	全国保健師教育機関協議会の研修参加
②	戸塚・渡辺	6月～8月	実習要項の作成
③	戸塚・渡辺	7月～8月	選抜試験問題作成
④	戸塚・渡辺	9月	選抜試験対策講座
⑤	戸塚・渡辺	10月, 1月	全国保健師教育機関協議会関東甲信越ブロック定例会議参加
⑥	戸塚・渡辺	11月～12月	保健師課程のシラバスの充実
⑦	戸塚・渡辺	3月	保健所・市町村実習申し込み(都庁)
⑧	戸塚・渡辺	3月	令和6年度の保健師国家試験模試計画立案

(事業計画名(3) 実習室の整備)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	戸塚・渡辺	4月～8月	実習室工事
②	戸塚・渡辺	9月～3月	実習室内の整備

4 その他(特記事項)

- ・特になし

(3)委員会ごとの事業計画

.....【学務委員会】.....

1 令和4年度における課題 (継続)

(1) 教務システムの円滑な運用と活用推進

- ・カリキュラムの円滑な運用(システムの周知、履修登録、成績管理)

(2) 学修環境・教育環境の継続的整備

- ・アクティブラーニングなど多様な授業手法に対応できる備品・環境整備
- ・学内Wi-Fi等ネットワーク環境に関する整備
- ・公衆送信に関連した著作権・サートラスに関する周知と対応
- ・感染対策に対応した安全な環境整備およびモニタリング

(3) 成績評価の客観性及び厳格性の確保

- ・ルーブリック評価の運用状況の把握と定着に向けた学修
- ・「東京純心大学 適正な成績評価のガイドライン」の周知、点検・評価

(4) 新旧カリキュラムの円滑な運用

- ・2015年度、2019年度、2022年度看護師・保健師カリキュラムの時間割の調整と運用
- ・2015年度、2019年度、2022年度看護師・保健師カリキュラムに関わる外部講師との調整
- ・2022年度以降看護学部入学生への学年制の導入
- ・現代文化学部在籍する学生への修学支援

1-2 令和5年度における新たな課題(新規)

(1) 教務システムの円滑な運用と活用推進

- ・新規教務システム導入に向けた検討

2 上記1及び1-2を踏まえた令和5年度の事業計画(目標) -P-

(1) 教務システムの円滑な運用と活用推進

- ①カリキュラムの円滑な運用(システムの周知、履修登録、成績管理)
- ②(新)新規教務システム導入に向けた検討

(2) 学修環境・教育環境の継続的整備

- ①ICTを活用した教育・教材開発の支援
- ②アクティブラーニングなど多様な授業手法に対応できる備品・環境整備
- ③学内Wi-Fi等ネットワーク環境に関する整備
- ④公衆送信に関連した著作権・サートラスに関する周知と対応
- ⑤blue掲載の学生便覧(PDF)の活用推進
- ⑥感染対策に対応した安全な環境整備およびモニタリング

(3) 学修成果評価指標の実態把握と教育改善への活用

- ①ディプロマ・サプリメント作成・発行
- ②学修行動調査の実施と学修支援への活用
- ③社会人基礎力調査の実施と学修支援への活用
- ④PROGテストの実施と学修支援への活用

(4) 成績評価の客観性及び厳格性の確保

- ①ループリック評価の運用状況の把握と定着に向けた学修
- ②シラバス作成ガイドラインの見直し
- ③シラバス第三者評価の導入推進
- ④「東京純心大学 適正な成績評価のガイドライン」の周知、点検・評価

(5) 新旧カリキュラムの円滑な運用

- ①2015年度、2019年度、2022年度看護師・保健師カリキュラムの時間割の調整と運用
- ②2015年度、2019年度、2022年度看護師・保健師カリキュラムに関わる外部講師との調整
- ③2022年度以降看護学部入学生への学年制の導入(進級基準に関する周知と適正な運用)
- ④現代文化学部在籍する学生への修学支援

3 上記2を踏まえた年間の実施予定事業 -D-

(事業計画名(1) 教務システムの円滑な運用と活用推進)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	事務 担当教員	4月～3月	カリキュラムの円滑な運用(システム周知、履修登録、成績管理)
②		4月～3月	(新)新規教務システム導入に向けた検討

(事業計画名(2) 学修環境・教育環境の継続的整備)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	事務	4月～3月	ICTを活用した教育・教材開発の支援

②		4月～3月	アクティブラーニングなど多様な授業手法に対応できる備品・環境整備
③	事務	4月～3月	学内Wi-Fi等ネットワーク環境に関する整備
④	事務	4月～3月	公衆送信に関連した著作権・サートラスに関する周知と対応
⑤	事務	4月～3月	blue掲載の学生便覧(PDF)の活用推進
⑥	事務	4月～3月	感染対策に対応した安全な環境整備およびクラスター分析

(事業計画名(3) 学修成果評価指標の実態把握と教育改善への活用)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	I R 室長	4月～3月	ディプロマ・サブリメント作成・発行
②	I R 室長 事務	4月～3月	学修行動調査の実施と学修支援への活用
③		4月～3月	社会人基礎力調査の実施と学習支援への活用
④		4月～3月	PROGテストの実施と学修支援への活用

(事業計画名(4) 成績評価の客観性及び厳格性の確保)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	事務	4月～3月	ルーブリック評価の運用状況の把握と定着に向けた学修
②	事務	4月～3月	シラバス作成ガイドラインの見直し
③		4月～3月	シラバス第三者評価の導入推進
④	事務	4月～3月	「東京純心大学 適正な成績評価のガイドライン」の周知、点検・評価

(事業計画名(5) 新旧カリキュラムの円滑な運用)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	事務	4月～3月	2015年度、2019年度、2022年度看護師・保健師カリキュラムの時間割の調整と運用
②		4月～3月	2015年度、2019年度、2022年度看護師・保健師カリキュラムに関わる外部講師との調整
③		4月～3月	2022年度以降看護学部入学生への学年制の導入（進級基準に関する周知と適正な運用）
④		4月～3月	現代文化学部在籍する学生への修学支援

4 その他（特記事項） 特になし

【図書館・学術委員会(学術)】

1 令和4年度における課題（継続）

- (1) 東京純心大学紀要発行
現代文化学部第28号、東京純心大学紀要看護学部第8号を合本として発刊。
- (2) 科学研究費助成事業
質の高い申請及び採択件数増加を目指し、支援を行う。正確な運用を行う。
- (3) 科研費説明会の実施
申請件数及び採択件数増加に結びつく説明会の充実を図る。

(4) researchmapの運用

ホームページとの連動や、教員の業績評価等への流用を促し、業績管理業務のスリム化といった有用性をアピールすることで、researchmap運用100%の実現を目指す。

(5) 機関リポジトリの運用

1-2 令和5年度における新たな課題(新規)

- ・特になし。

2 上記1及び1-2を踏まえた令和5年度の事業計画(目標)-P-

(1) 東京純心大学紀要28号発行

(2) 科学研究費助成事業

(3) 科研費説明会の実施

(4) researchmapの運用

(5) 機関リポジトリの運用

3 上記2を踏まえた年間の実施予定事業 -D-

(事業計画名(1) 東京純心大学紀要28号発行)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	図書館・学術運営委員	4月～6月	学部ごとの細則等整備
②	図書・研究支援課	3月下旬	紀要編集

(事業計画名(2) 科学研究費助成事業)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	図書・研究支援課	4月～3月	科研費申請手続
②	図書・研究支援課	4月～3月	科研費の運用支援

(事業計画名(3) 科研費説明会の実施)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	図書・研究支援課	5月	説明会の実施

(事業計画名(4) researchmapの運用)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	図書・研究支援課	4月～3月	researchmapの運用支援

(事業計画名(5) 機関リポジトリの運用)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	図書・研究支援課	4月～3月	機関リポジトリ運用(紀要の電子化等)

4 その他(特記事項)

特になし

..... **【学生生活委員会】**

1 令和4年度における課題 (継続)

- (1) 各担当委員と学生会各部署担当者の連携が不十分である。

1-2 令和5年度における新たな課題(新規)

- (1) 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、低迷している学生の課外活動への支援体制として、

担当委員から文化体育委員会への働きかけが不十分である。

2 上記1及び1-2を踏まえた令和5年度の事業計画(目標)-P-

- (1) 学生会活動の支援体制の強化。
- (2) 感染症対策を考慮したうえでの大学行事の実施。
- (3) 学生生活アンケートの実施。
- (4) 就職対策準備活動の支援。
- (5) (新)学生会の課外活動運営の支援。

3 上記2を踏まえた年間の実施予定事業 -D-

①(事業計画名(1) 学生会活動の支援体制の強化)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	委員全員	4月～3月	新型コロナウイルス感染症対策に配慮し、開催方法を検討したうえで、新入生オリエンテーション、学生総会、七夕、会計に関する研修会、聖母祭、中間監査、クリスマスの集い等の準備から実施までをサポートする。

②(事業計画名(2) 感染症対策を考慮したうえでの大学行事の実施)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	委員全員	4月, 9月, 3月	新型コロナウイルス感染症対策に配慮し、開催方法を検討したうえで、入学式及び学位記授与式を実施する。

(事業計画名(3) 学生生活アンケートの実施)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	担当委員 事務局	4月～3月	学生生活アンケートの作成、実施、集計、学生への結果報告及びフィードバック等を行う。

(事業計画名(4) 就職対策準備活動の支援)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	事務局	9月～2月	授業科目キャリアセミナーの実施。
②	事務局	4月～3月	インターンシップ実施の支援。
③	事務局	12月～1月	就職対策講座説明会の周知・実施。

(事業計画名(5) (新)学生会の課外活動運営の支援)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	事務局	4月～3月	文化体育委員の学生と調整を図り、クラブ・サークルの新規発足の呼びかけや運営を支援する。

4 その他(特記事項)

- ・特になし

..... 【図書館・学術委員会(図書)】

1 令和4年度における課題 (継続)

- (1) 感染症下における図書館利用数向上。
- (2) ニーズにあった資料拡充。規範意識の低い利用者に対し、利用者スキル向上を促し改善を試みる。
- (3) 感染症下における催し(学内外)の実施方法の検討を続ける。
- (4) 東京純心出版局(Tokyo Junshin University Press)構想

- (5) 著作権の最新情報収集及び発信。授業における著作権法遵守の徹底。
- (6) 利用者(特に学生)の利用スキル向上のために引き続き学部との協働を充実させる。
- (7) 図書館内の衛生管理について利用者への意識化をカウンター業務として徹底する。
- (8) 図書館を生きた施設としてますます発展させていくための創意工夫を諦めない。
- (9) 2階サーバ室の回収と資料の配架
- (10) 研究支援の充実

1-2 令和4年度における新たな課題(新規)

- (1) 大学ホームページにおける学習支援ページの充実

2 上記1及び1-2を踏まえた令和5年度の事業計画(目標)-P-

- (1) 来館者数増加対策
- (2) 蔵書管理と利用者の利用及び検索スキル向上
- (3) 絵本等を活用した地域公開事業
- (4) 図書館報BIBLIA38号刊行。東京純心出版局の検討再開
- (5) 著作権についての情報収集と発信
- (6) 学部との協働による各種ガイダンスの実施
- (7) 館内環境整備と衛生
- (8) 開かれた図書館を目指して
- (9) 貴重資料や大学の歴史資料の保存管理
- (10) 大学ホームページにおける各種支援ページの充実

3 上記2を踏まえた年間の実施予定事業 -D-

(事業計画名(1) 来館者数増加対策)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	図書・研究支援課	4月～3月	感染症下における図書館利用の啓発

(事業計画名(2) 蔵書管理と利用者の利用及び検索スキル向上)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	図書・研究支援課	4月～3月	計画的図書資料購入、蔵書点検、除籍
②	図書・研究支援課	4月～3月	利用者の検索スキル向上(図書及びデータベース等)

(事業計画名(3) 絵本等を活用した地域公開事業)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	担当教員	8月	平和展での絵本展示等
②	図書・研究支援課	10月	聖母祭での一般公開
③	図書・研究支援課	12月	クリスマスチャリティオルガンコンサートでのクリスマス絵本の展示

(事業計画名(4) 図書館報BIBLIA39号刊行。東京純心出版局の検討再開。)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	図書・研究支援課	4月～10月	出版局構想の検討
②	図書・研究支援課	12月	図書館報BIBLIAの発行

(事業計画名(5) 著作権についての情報収集と発信)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
----	-------	--------	------

①	図書・研究支援課	4月～3月	著作権指導と情報収集
---	----------	-------	------------

(事業計画名(6) 学部との協働による各種ガイダンスの実施)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	担当教員、図書・研究支援課	4～6月	両学部1年生向け図書館利用ガイダンス
②	担当教員、図書・研究支援課	6月	現代文化学部2年生向け論文検索ガイダンス
③	担当教員、図書・研究支援課	随時	両学部3年生以上向け卒論卒研用文献検索ガイダンス
④	図書・研究支援課	随時	ゼミ単位のガイダンス依頼対応

(事業計画名(7) 館内環境整備と衛生)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	図書・研究支援課	4月～3月	PC環境等の整備
②	図書・研究支援課	4月～3月	検温、手指消毒、清潔保持

(事業計画名(8) 開かれた図書館を目指して)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	図書館・学術運営委員会 図書・研究支援課	4月～3月	SDGsの発信

(事業計画名(9) 貴重資料や大学の歴史資料の保存管理)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	図書・研究支援課	4月～3月	資料室の整備運用

(事業計画名(10) 大学ホームページにおける各種支援ページの充実)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	図書・研究支援課	4月～3月	研究支援ページの整備運用

4 その他(特記事項)

- ・特になし

【入試委員会】

1 令和4年度における課題 (継続)

- (1) ICT活用した志願者目線の「学生募集要項」、「入試ガイド・インターネット出願ガイド」等の改訂と運用、及び受験生の出願準備の支援強化
- (2) 第三者機関による検証機能の強化、及び「評価の観点・配点基準」の改訂等による「公平かつ厳正な選抜試験」の実施
- (3) 志願者数増加と本学のAPに見合った入学者の確保

- (4) IR推進室との連携による入学者選抜方法の妥当性の継続的な検証と検証結果の活用
- (5) 2025年新課程入試への継続的対応

1-2 令和5年度における新たな課題(新規)

- (1) 別科助産専攻(仮称)の入試体制整備
2024年度の入学確保に向けて入試体制を整備する。

2 上記1及び1-2を踏まえた令和5年度の事業計画(目標)-P-

- (1) ICT活用した志願者目線の「学生募集要項」等の改訂と運用
 - ①「学生募集要項」と「入試ガイド・インターネット出願ガイド」の改訂・運用
 - ②新入学者・在学生の意見を反映させた志願者目線の「入試ガイド・インターネット出願ガイド」の改訂・運用
 - ③選抜試験の説明動画作製と運用
- (2) 公平かつ厳正な選抜試験の実施
 - ①入試問題作成スケジュール及び検証機能(外部機関・学内)の改訂・運用
 - ②入学者選抜試験「評価の観点、配点基準」(令和6年度版)の改訂・運用
 - ③「入学者選抜試験実施要領」の改訂と実施体制の強化
 - ④選抜試験時のリスク管理の見直しと環境調整
- (3) 入学者数の確保
 - ①選抜試験に関わる動向分析(入試実績、競合校の入試情報、広報実績等)による目標値設定
 - ②入学者選抜試験方法(区分・募集人数・選抜方法・日程等)の検討
 - ③指定校枠の拡大と学園内・姉妹校との連携強化
- (4) 入学者選抜方法の妥当性の検証と活用
 - ①選抜試験に係るデータと入学後の成績等のデータの一元化
 - ②「本学における選抜方法の妥当性の検証方法」の運用と検証結果の活用
- (5) 2025年新課程入試への対応
 - ①新学習指導要領の運用状況等の情報収集と選抜方法の検討
- (6) 別科助産専攻(仮称)の入試体制整備
 - ①2024年度入学に向けて選抜方法の検討と運用

3 上記2を踏まえた年間の実施予定事業 -D-

(事業計画名(1) ICT活用した志願者目線の「学生募集要項」等の改訂と運用)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	事務・委員	4月～3月	①-1 「学生募集要項」改定と運用 ①-2 「インターネット出願ガイド」改定と運用 ①-3 HP掲出後の運用評価・課題抽出
②	事務・委員	4月～3月	②-1 学生への聞き取り ②-2 「入試ガイド」改定と運用 ②-3 HPアクセス状況把握、運用評価・課題抽出
③	事務・委員	4月～3月	③-1選抜方法の説明動画作製・運用 ① -2 HP アクセス状況把握、運用評価・課題抽出

(事業計画名(2) 公平かつ厳正な選抜試験の実施)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	事務・委員	4月～3月	①-1 選抜試験問題作成スケジュールの見直しと運用

			①-2 選抜試験問題の確実な学内チェック実施 ①-3 選抜試験問題の検証機能の評価と課題抽出
②	事務・委員	4月～3月	②-1 「評価の観点・配点基準」の見直し ②-2 選抜試験担当者への説明会実施 ②-3 運用評価・課題抽出
③	事務・委員	4月～3月	③-1 選抜試験政策動向の把握（文科省、入試センター等） ③-2 入学者選抜におけるチェック体制（方針・体制等）の見直し ③-3 選抜区分別「入学者選抜試験実施要領」改訂・運用 ③-4 運用評価・課題抽出
④	事務・委員	4月～3月	④-1 緊急時の対応・感染対策等のリスク管理見直しと徹底 ④-2 運用評価・課題抽出

(事業計画名(3) 入学者数の確保)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	事務・委員	4月～3月	①-1 選抜試験実績等(志願者・受験者・辞退者・入学者等)データ分析・目標値設定 ①-2 他大学の選抜試験情報(選抜方法・実績等)収集と分析
②	事務・委員	4月～3月	②-1 ①のデータ分析をもとに入学者選抜試験方法の検討 ②-2 広報委員会との選抜試験広報活動の情報・課題共有
③	事務・委員	4月～3月	③-1 広報委員会との指定校に関する情報共有 ③-2 指定校からの出願・入学実績の分析と拡大

(事業計画名(4) 入学者選抜方法の妥当性の検証と活用)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	事務・委員	4月～3月	①-1 令和5年度入学者選抜試験に関するデータ整理 ①-2 入学後の成績等(GPA・基礎学力試験結果等)の入力
②	事務・委員	4月～3月	②-1 「本学における選抜方法の妥当性の検証方法」に基づきIR推進室へ依頼 ②-2 分析視点と検証指標に基づき検証と検証結果の活用 ②-3 「本学における入学者選抜方法の妥当性の検証方法」の見直し

(事業計画名(5) 2025年新課程入試の対応)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	事務・委員	4月～6月	①-1 高校訪問等による新学習指導要領の運用状況等の情報収集 ①-2 他大学の選抜試験等の情報収集 ①-3 2025年度以降の選抜試験に関する検討

(事業計画名(6) 別科助産専攻(仮称)の入試体制整備)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	事務・委員	4月～6月	①-1 他大学の選抜試験情報の把握と分析 ①-2 入学者募集要項等の作成と運用

4 その他(特記事項)

特になし

..... 【広報委員会】

1 令和4年度における課題（継続）

- (1) オープンキャンパス参加者数はコロナ禍前にもどりつつあるが、コロナ禍前以上の参加者を出願に結び付けるために、オープンキャンパス開催回数や内容等を更に検討することが課題である。
- (2) 高校生からの資料請求数が、コロナ禍前より少ないため、他媒体の導入やホームページからの資料請求方法・手段をわかりやすくするよう検討することが課題である。
- (3) 大学アピールの一環として、高校訪問や相談会等を実施しているが、まだまだ本学の存在を知らない高校教員や生徒が多いため、教職員で協力するなど更なる検討が課題である。

1-2 令和5年度における新たな課題(新規)

- ・特になし

2 上記1及び1-2を踏まえた令和5年度の事業計画(目標)-P-

- (1) 出願に直結する受験対策や看護職への興味を持たせるために年間オープンキャンパスや選抜試験相談会・個別相談WEEKの回数を増やし、看護体験等を実施する。
- (2) 受験生目線の大学ホームページ作りを目指すために、媒体Webを活用すると共に、オープンキャンパス参加者から好評を得ている在学生サポーターや在学生中心の動画・写真をホームページに掲載する。
- (3) 外部への大学アピールを強化するために、教職員や業者による模擬講義やガイダンス参加、個別高校訪問WEEKなどを実施する。

3 上記2を踏まえた年間の実施予定事業 -D-

(事業計画名(1) 年間オープンキャンパス・選抜試験相談会・個別相談WEEK・看護体験等の実施)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実 施 内 容
①	未定	6月～3月	①-1 オープンキャンパス8回(選抜試験相談会含む) 内容：学部学科説明、基礎学力支援センター説明、保健師課程説明、学内ツアー、在学生と話そう、個別相談、受験対策等
		7月～8月 12月～1月	①-2選抜試験相談WEEK4回 内容：個別相談、施設見学、個別相談WEEK
②		6月	① -1 高校教員対象大学説明会 2 回(オンライン)
③		7月	③-1 純心中学・高校教員対象 学科説明会(学部長挨拶・学科説明・施設見学・看護体験)
		7月	③-2 純心高校1年生対象 学科説明会(学部長挨拶・学科説明・施設見学・看護体験)
	11月	③-3 純心中学3年生対象 看護体験(看護体験・施設見学)	
	7月	③-4 純心中学オープンキャンパス参加者(小学生)対象看護体験	

(事業計画名(2) 受験生目線の大学ホームページの新規改訂と媒体Webの活用)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	未定	5月～12月	①-1 「私が入学を決めた理由」 ①-2 「キャンパスライフレポート」 ①-3 「大学生活中に乗り越えた壁」 ①-4 「卒業生による大学生活の思い出」 ①-5 行事「入学式・グループワーク風景・演習風景・宣誓式・オープンキャンパス・大学祭・クリスマス会・

			卒業式 ①-6 「大学の案内：実習室・教室・学生会室・学生ホール・図書館・食堂・聖堂」 ① -7 「バス降車～坂を上るまで～教室まで」
②		9月～3月	②-1 Web大学案内(アニメ風)
③		4月～3月	③-1 行事・講義・演習・実習等ホームページtopics 掲載
④		4月～3月	④-1 ホームページの掲載フロー作成 ② -2 ホリゾンとの連絡・調整

(事業計画名(3) 外部への大学アピール強化のための模擬講義・ガイダンス参加・個別高校訪問WEEKの実施)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	未定	5月～3月	①-1 高校訪問：坂本次長・藤本課長、業者さんぼう ①-2 個別高校訪問WEEKの実施 ①-3 高校ガイダンス(系統別説明会)、会場ガイダンス：次長・課長
②		4月～3月	②-1 高校ガイダンス(模擬授業)：1教員が2回以上の模擬授業を実施 ②-2 出張講義：高校より依頼を受けて教員が担当
③		4月～3月	③-1 広報活動マークの活用：授業や広報資料 ③-2 オリジナルグッズデザイン(バッグ、はがきなど)
④		10月～3月	④-1 大学報「えにしだ」：作成
⑤		9月～3月	⑤-1 大学案内の冊子：作成

4 その他(特記事項)

緊急事態宣言時は、上記事業計画をオンラインで実施する。

..... **【不正防止計画推進委員会】**

1 令和4年度における課題 (継続)

- (1) 不正防止研修会の開催を1か月前倒しで実施する。
- (2) 年々細分化される「自己評価チェックリスト」項目に、対応した整備体制を整える。

1-2 令和5年度における新たな課題 (新規)

- (1) 不正防止研修会(学外)への参加。

2 上記1及び1-2を踏まえた令和5年度の事業計画(目標)-P-

- (1) 不正防止研修会の実施
- (2) 研究倫理e-learning(日本学術振興会 等)を活用した自己学習の推進
- (3) 自己評価チェックリストに基づいた不正防止体制の整備
- (4)(新)不正防止研修会(学外)への参加

3 上記2を踏まえた年間の実施予定事業 -D-

(事業計画名(1) 不正防止研修会)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	不正防止計画推進委員会	6月	不正防止研修会の実施

(事業計画名(2) 研究倫理e-learning(日本学術振興会等)を活用した自己学習の推進)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
②	不正防止計画推進委員会	4月～3月	研究倫理e-learning(日本学術振興会 等)を活用した自己学習の推進

(事業計画名(3) 自己評価チェックリストに基づいた不正防止体制の整備)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
③	不正防止計画推進委員会	4月～10月	自己評価チェックリストに基づいた不正防止体制の整備 (大学及び学園規程・要領・監査体制の再チェック)

④(事業計画名(4) 不正防止研修会(学外)への参加)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
④	不正防止計画推進委員会	4月～3月	不正防止研修会(学外)への参加

4 その他(特記事項)

- ・特になし

【FD・SD委員会】

1 令和4年度における課題 (継続)

- (1) 教育の質を保証するために、授業評価アンケート内容と実施方法の見直し、ルーブリック評価の作成、学生FDへの支援、ティーチング・ポートフォリオ研修などを通して、教員のリフレクションを行い、学修支援の技術を向上させることが必要である。
- (2) 新任者研修の体系化、FD研修・SD研修を充実させ、教職員のキャリア・ディベロップメント「教育力・研究力・社会貢献力の強化」を図る必要がある。

1-2 令和5年度における新たな課題(新規)

- (1) 大学で実施される研修(他委員会主催の研修を含む)の計画的な実施

2 上記1及び1-2を踏まえた令和5年度の事業計画(目標)-P-

- (1) 教育の質の保証のための学修支援技術の向上
- ①授業評価アンケートの本格的な運用と評価
 - ②公開授業の実施により学修支援技術の向上
 - ③FD・SD研修「個人情報の保護」に関する学生指導の知識・技術の向上
 - ④FD研修「ルーブリック評価」を実施し、作成したルーブリックのブラッシュアップ
 - ⑤SD研修による職員の事務処理能力の向上
 - ⑥学生FD「しゃべり場」の自主的な活動への支援
- (2) 教職員のキャリア・ディベロップメント「教育力・研究力・社会貢献力の強化」
- ①新任者研修プログラムの構築と実施
 - ②職員研修プログラムの実施
 - ③ベストティーチャー賞授与に向けた運用
 - ④ティーチング・ポートフォリオ作成による教育活動の振り返りと改善
 - ⑤他委員会との研修の実施(共催)
- (3) (新) 本学における教職員研修の体系化
- ①本学における教職員研修(他委員会主催含む)の体系化

3 上記2を踏まえた年間の実施予定事業 -D-

(事業計画名(1) 教育の質の保証のための学修支援技術の向上)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	委員全員	6月	公開授業の実施・評価
②	委員全員	6月	FD・SD研修「個人情報の保護」の実施と評価
③	委員全員	8月	FD研修「ルーブリック評価」の実施と評価
④	委員全員	6月	学生FD「しゃべり場」実施と評価
⑤	委員全員	4月～3月	他委員会との共催研修の実施と評価

(事業計画名(2) 教職員のキャリア・ディベロップメント「教育力・研究力・社会貢献力の強化」)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	委員全員	4月～12月	新任者研修プログラムの実施と評価
②	事務	4月～3月 12月～2月 8月 10月	職員研修の実施と運用と評価 <共通> ・毎月1回開催の職員会議を活用 ・マインドマップ研修 ・大学コンソーシアム八王子主催研修会 <業務別> 外部研修への参加 ・日本私立大学協会主催研修会 ・大学教務実践研究会セミナー 等 日本能率協会の提供する研修教材の検討 ※なおここでのSDの定義は事務職員とする
③	委員全員	9月, 3月	ベストティーチャー賞の運用
④	委員全員	4月～12月	ティーチング・ポートフォリオ研修の実施

(事業計画名(3) 本学における教職員研修の体系化)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	委員全員	4月～3月	他委員会主催の研修との内容・日程の調整

4 その他(特記事項)

- ・特になし

.....【自己点検・評価委員会】

1 令和4年度における課題 (継続)

- (1) 大学機関別認証評価を受審するための自己点検評価書の記載内容の精査と資料の点検

1-2 令和5年度における新たな課題(新規)

- (1) 大学機関別認証評価受審に向けての体制整備

2 上記1及び1-2を踏まえた令和5年度の事業計画(目標)-P-

- (1) (新) 大学機関別認証評価事業
- (2) 令和5(2023)年度自己点検評価書の作成
- (3) 令和5(2023)年度第三者委員会開催

3 上記2を踏まえた年間の実施予定事業 -D-

(事業計画名(1) 大学機関別認証評価事業)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	吉田稔	6月	令和5(2023)年度自己点検評価書等の作成と提出
②	吉田稔	8月	評価員会議資料提出(視察ルート、体制一覧など)
③	吉田稔	9月	書面質問及び依頼事項への対応
④	吉田稔	10月下旬	実地調査対応

(事業計画名(2) 令和5(2023)年度自己点検評価書の作成)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	増田光	6月～10月	各部署に5月1日以降の内容について執筆依頼
②	増田光	11月～1月	各部署が執筆した内容(自己点検評価書)を確認する
③	吉田稔	11月～1月	必要な資料を確認しまとめる

(事業計画名(3) 令和5(2023)年度第三者委員会開催)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	増田光	4月～5月	第三者委員会開催時期の決定
②	増田光	5月～9月	第三者委員の選任
③	増田光	2月	第三者委員会開催

4 その他(特記事項)

- ・特になし

.....【研究倫理委員会】

1 令和4年度における課題 (継続)

- (1) 審査フローの周知 → 11月の学部会・学科会で周知した。課題達成
- (2) 規程およびガイドラインの運用に関する周知 → 前年度末に周知したため、継続課題
- (3) 委員の研修会への参加 → 現在、研修会を検討中 → 継続課題

- (4) ヒアリングの適切な運用 → ヒアリングの事案はあったが、運用方法に課題があった。
 (5) ホームページなどでの情報発信 → 現在、審議中のため、継続課題
 (6) 研究倫理審査会の実施 → 実施している(7月、9月、10月)。

1-2 令和5年度における新たな課題(新規)

- (1) 審査の迅速化と透明性の確保

2 上記1及び1-2を踏まえた令和5年度の事業計画(目標)-P-

- (1) (新) 審査フローの周知
 (2) 規程およびガイドラインの運用に関する周知
 (3) 委員の研修会への参加
 (4) ヒアリングの適切な運用
 (5) ホームページなどでの情報発信
 (6) 研究倫理審査会の実施

3 上記2を踏まえた年間の実施予定事業 -D-

(事業計画名(1) 審査フローの周知)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	委員長 副委員長	4月～5月	学科会・学部会において審査の流れを説明する。

(事業計画名(2) 規程およびガイドラインの運用に関する周知)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	委員長 副委員長	4月～5月	学科会・学部会において規程及びガイドラインを説明する。

(事業計画名(3) 委員の研修会への参加)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	委員長 事務担当	4月～6月	遠隔テレビ会議システム(Zoom)を活用した研究倫理研修会及び対面での研修会の選別
②	委員	7月～11月	研究倫理研修会(Zoomまたは対面)に参加して理解を深める。
③	委員全員	9月～3月	委員間で情報を共有する。

(事業計画名(4) ヒアリングの適切な運用)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	委員全員	4月	ヒアリング相談窓口体制の構築
②	委員長 副委員長	5月	ヒアリングの周知
③	委員全員	6月～3月	ヒアリングの運用

(事業計画名(5) ホームページなどでの情報発信)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	委員全員	4月～3月	委員会の場で、ホームページに掲載する内容を審議する。
②	未定	4月～3月	担当の委員がアップする。

(事業計画名(6) 研究倫理審査会の実施)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	委員全員	5月～2月	委員会の場で審査会の準備状況を確認する。
②	委員全員	5月～2月	審査会に参加し、意見を述べる。
③	事務局	4月～3月	審査会準備、議事録の記載、外部審査員との調整。

4 その他(特記事項)

- ・特になし

..... 【情報管理委員会】

1 令和4年度における課題（継続）

(1) ICTサポータースキルアップ学習会

- ・4月開催の内容について、新任教員とそれ以外の教員のスキルの違いをどの様に扱うか。
- ・新型コロナウイルスの影響による遠隔授業中心の学習形態から対面による授業に戻りつつある今、サポータースキルアップについて見直す必要が生じている。

(2) 教職員用学内情報システム利用時の情報セキュリティおよび情報モラルのガイドラインの策定

- ・どのレベルまでのガイドラインが必要なのか検討

(3) 学生用デスクトップPCの運用検討

デスクトップPCを廃止するためには、学内WiFiの改善が必要となるので、法人と連携しながら進める。

1-2 令和5年度における新たな課題(新規)

(1) 特になし

2 上記1及び1-2を踏まえた令和5年度の事業計画（目標）-P-

(1) ICT学習会

(2) 教職員用学内情報システム利用時の情報セキュリティおよび情報モラルのガイドラインの策定

(3) 学生用デスクトップPCの運用検討

3 上記2を踏まえた年間の実施予定事業 -D-

(事業計画名(1) ICT学習会)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	未定	4月	第1回ICT学習会
		6月	第2回ICT学習会
		10月	第3回ICT学習会
		3月	アンケート等の集計と全体の振り返り

(事業計画名(2) 教職員用学内情報システム利用時の情報セキュリティおよび情報モラルのガイドラインの策定)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	未定	4月～6月	ガイドライン策定のためのレベルの検討
		8月～11月	それぞれの項目案について検討
		12月～2月	校正、各署への確認
		2月	決定案を運営協議会へ提出

(事業計画名(3) 学生用デスクトップPCの運用検討)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	未定	4月	法人との打ち合わせ
		5～9月	運用計画案策定
		9月～3月	運用に向けた準備（移行のための試験運用等）

4 その他（特記事項）

- 特になし

.....【ハラスメント防止委員会】.....

- 1 令和4年度における課題（継続）
 - (1) 相談員が適切に相談を受けることができる体制整備
 - (2) 「相談員を対象とした相談マニュアル」改訂
- 1-2 令和5年度における新たな課題(新規)
 - (1) ハラスメント防止に関する普及啓発促進
- 2 上記1及び1-2を踏まえた令和4年度の事業計画(目標)-P-
 - (1) (新)ハラスメント防止啓発月間に、普及啓発を強化する。
 - ①5月、パンフレット配布・配信する。
 - ②11月、学内にポスターを掲示する。
 - ③11月、教職員に向けた研修会を実施する。
 - (2) 相談員の負担軽減と適切に相談を受けることができる体制整備
 事案発生時、初期対応がその後の結果を左右する。相談員が果たす役割は重要だが、その反面、精神的負担も大きい。そのため、マニュアル等の整備や研修の実施等、体制整備を行う。
 - ①相談員を対象とした相談マニュアルの改訂
 - ②相談員の研修体制の整備
 - (3) 事案発生時の早期・適切な対応を行い、早期解決に向けた取り組みを行う。

3 上記2を踏まえた年間の実施予定事業 -D-

(事業計画名(1) (新)ハラスメント防止啓発月間に、普及啓発を強化する)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	委員長・事務局	4月～5月	学生・教職員にパンフレットメール配信
②	担当委員・事務局	11月	学内にポスター掲示
③	委員全員	11月	教職員研修の実施

②(事業計画名(2) 相談員の負担軽減と適切に相談を受けることができる体制整備)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	委員全員	4月～7月	相談員を対象とした相談マニュアルの改訂
②	委員全員	4月～7月	相談員の研修実施

(事業計画名(3) 発生事案の早期・適切な対応を行い、早期解決に向けた取り組み)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	委員全員	通年	相談者の相談内容を受容し、相談者、相談員、委員会における、連絡、相談、報告等をスムーズに行い、早期に解決できるよう努める。

4 その他(特記事項)

- ・特になし

.....【IR委員会】.....

- 1 令和4年度における課題（継続）
 - (1) 本学のデータをまとめた「FACT BOOK2022」を作成し学長に提出するとともに、サイボウズを通じて全教職員で共有した。また、ホームページにも掲載し情報公開に努めた。さらに1月には「IR

- 報告会」を実施し、教職員で情報を共有する予定である。「FACT BOOK2022」を活用し問題発見や問題解決につなげてもらうよう、必要なデータを精査し見直すことが課題である。
- (2) 新入生に対し「PROGテスト」を実施するとともに、学生対象解説会、教職員対象説明会を実施した。また、面談で活用してもらうために、アドバイザーに参考資料とともに情報提供を行った。社会人基礎力調査の結果とあわせて検証し教育改善につなげていくこと、面談等で活用し学生の成長につなげることが課題である。
 - (3) 令和2(2020)年度両学部卒業生を対象に、「卒業生アンケート調査」及び「就職先による卒業生に対する評価調査」を実施した。卒業生が少ないことに加え回収率が低いことから、令和3(2021)年度の調査結果と合わせて検証し、教育改善につなげることが課題である。
 - (4) 令和3(2021)年度より両学部共通した設問による「卒業時アンケート」を実施したが、令和4(2022)年度も両学部共通した設問により実施する予定である。調査の結果を活用し教育改善につなげることが課題である。
 - (5) IR活動に必要な外部の研究会、研修会に積極的に参加した。研究会、研修会で学んだ知識を活用しわかりやすいデータにすることで、教職員にそのデータを活用してもらうことが課題である。
 - (6) 令和4(2022)年度始めに新入生の様々な情報をまとめた「新入生情報」(概要および個人表)を作成し配付した。令和5(2023)年度に向け、授業担当者やアドバイザーがより活用しやすい「新入生情報」に改善することが課題である。

1-2 令和5年度における新たな課題(新規)

- (1) 令和5(2023)年度より両学部4年生が「PROGテスト」を実施する。1年次の結果とあわせて比較分析し、教育改善等に向けた提案をするとともに、学生自身が結果をふまえて最終学年における目標を設定し成長につなげることが課題である。

2 上記1及び1-2を踏まえた令和4年度の事業計画(目標)-P-

- (1) 「FACTBOOK2022」、「IR報告書」の作成、「IR報告会」の実施
- (2) (新)1年生および4年生における「PROGテスト」実施と分析
※ 新規の事業は、4年生における「PROGテスト」の実施
- (3) 「卒業後アンケート」、「就職先の卒業生に対する評価アンケート」の実施と分析及び結果の公表
- (4) 「卒業時アンケート」の実施と分析及び結果の公表
- (5) IR推進室担当者の「研修会」、「研究会」、「シンポジウム」等への参加
- (6) 「新入生に関する情報データベース」の作成

3 上記2を踏まえた年間の実施予定事業 -D-

(事業計画名(1) 「FACTBOOK2023」、「IR報告書」の作成、「IR報告会」の実施)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	上林	4月～7月	「教育の質保証」、「エンロールメントマネジメント」に関する指標のデータを収集し「FACTBOOK2023」を作成する。
②	上林	8月～12月	「FACTBOOK2023」をもとにデータを分析し、「IR報告書」を作成する。
③	上林	10月	「FACTBOOK2023」をホームページにて公開する。
④	吉田、上林	1月	「IR報告会」を実施する。

(事業計画名(2) (新)「PROGテスト」の実施と分析)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実施内容
①	上林	4月	「PROGテスト」を実施する。(1年生、4年生)
②	上林	5月	「学生対象解説会」を実施する。(1年生、4年生の2回) 個人の結果について、アドバイザーと情報を共有する。

③	上林	7月	「教職員対象説明会」を実施する。(1年生、4年生をまとめて1回)
③	上林	1月～3月	次年度に向けて業者との打合せを行い、準備する。

(事業計画名(3) 「卒業後アンケート」、「就職先アンケート」の実施と分析及び結果の公表)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実 施 内 容
①	上林	7月～9月	「卒業後アンケート」、「就職先の卒業生に対する評価アンケート」を作成し、依頼(発送)する。
②	上林	11月	結果の集計・分析し、報告書を作成する。
③	吉田	12月	大学運営協議会、教授会において報告する。

(事業計画名(4) 「卒業時アンケート」の実施と分析及び結果の公表)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実 施 内 容
①	上林	12月～1月	「卒業時アンケート」を作成する。
②	上林	2月	「卒業時アンケート」を実施する。
③	上林	3月	結果の集計・分析し、報告書を作成する。
④	吉田	4月	大学運営協議会、教授会において報告する。

(事業計画名(5) IR推進室担当者の「研修会」、「研究会」、「シンポジウム」等への参加)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実 施 内 容
①	上林	4月～3月 (随時)	「研修会」、「研究会」、「シンポジウム」等へ積極的に参加する。また、得られた情報をIR委員会で共有する。

(事業計画名(6) 「新入生に関する情報データベース」の作成)

番号	担当者氏名	実施予定時期	実 施 内 容
①	上林	3月～4月	「新入生に関する情報データベース」を作成する。
②	吉田	4月	大学運営協議会、教授会において報告する。
③	上林	4月	学部に情報を提供する。

4 その他(特記事項)

- ・学校基本調査への対応(4月～6月)
- ・ディプロマ・サプリメント作成への協力
- ・社会人基礎力調査結果のデータ作成への協力
- ・2023年度認証評価に向けた準備
- ・令和5(2023)年度大学機関別認証評価エビデンス集(データ編)の作成

1. 東京純心女子中学校・高等学校

(1) 純心教育部

①業務内容

被爆校をルーツに持つ本校の教育目標「平和な未来を創る人を育てる」を進めるため、宗教教育、平和教育、国際教育、エコロジー教育の4つの分野について、教科横断的に教育内容全体をデザインする。

ア. 宗教教育

聖母マリアのように「神様にも人にも喜ばれる女性」を育てるという建学の精神に基づき、聖書の教えにふれながら、学園標語「マリアさま いやなことは 私が よろこんで」の実践を奨励する。

イ. 平和教育

戦争をはじめ、平和を妨げる社会の諸問題と向き合い、平和な世界の構築に向けて考え、行動につなげる。

ウ. 国際教育

様々な体験を通して異文化を学び、国境を越えたコミュニケーション力をつけるとともに、国際的な視野を養う。

エ. エコロジー教育

五感を用いて、いのちの尊厳に触れ、自分と世界、人と自然のあり方を模索する。経験の中から、人と人、人と自然・環境との関係を見つめ直す。

②活動内容

ア. 宗教教育

宗教行事の企画・運営

創立記念式典、中3修養会、高3修養会、クリスマス会、ロザリオの祈り。

日々の啓発

朝礼、月間目標、放送朝礼など。

イ. 平和教育

6年間（3年間）の平和教育プログラムの策定と運営

学年に応じ、教科や学年団と連携して行う。

長崎研修、講演「ハンナのかばん」、「憲法 キホンのキ」など。

8月9日登校日「純心祈りの日」、長崎「平和の旅人」の企画、運営

ウ. 国際教育

より効果的な留学生（大学生）との交流、オンライン交流などのプログラムを企画し、推進する。

ターム留学、海外研修の充実をはかり、英語科、学年、教務部と連携し運営する。

エ. エコロジー教育

教科としての労作の認知を深め、内外に発信する。

生徒主体の活動の機会を増やし、体験からの学びを重視する。

③横断的教育活動

ア. 中学図書館、高校図書館を活用する。

イ. 探究科と連携し、探究学習の内容を深める。

ウ. 放課後活動のプログラム企画と運営をする。

エ. 高大連携を活用する。

(2) 教務部

①生徒のより充実した教育活動の実現に向け、様々な取り組みが遅滞なく、効果的に行えるよう尽力する。

特に今年度より始動するFYMについて、その円滑な実行および充実に努める。

②すららおよびスタディサプリ、Google Workspace等のICTツール活用を促し、業務合理化を目指す。

③部内の連携を図り、円滑な業務遂行を目指す。

今年度より、入学式や始業式等の式典について、行事部よりその業務を引き継ぐ。

(3) 進路部

①大学進学実績向上のために以下のことを行う。

- ア. 国公立大学、難関私立大学、GMARCHへの合格実績を向上させるために、進路意識や学習意欲の向上を図る進路行事を実施する。なかでも、高大連携協定を締結した大学の協力を仰ぎ、早期に大学での研究・実習・学修に触れることで、中学・高校とにも進路意識の向上を図る。
- イ. 本校からの進学者及び志望者の多い大学から入試担当者を招き、大学個別の入試説明会を実施する。また、特に人気のある看護医療系、情報系など、分野に特化した説明会も同時に実施していく。その際は、保護者も参加可能な日程で実施したい。
- ウ. 模擬試験実施後、ベネッセや河合塾といった模擬試験実施企業に対し、本校生徒の試験結果分析や他校比較を依頼し、その報告会を実施する。当該学年の教員のみならず、授業担当の教員も出席し、事後の学習指導に反映できるようにする。
- エ. 生徒に対し、模擬試験実施後の振り返りや解き直しなどの指導を積極的に行う。模擬試験で高得点をあげることが、学力の向上・大学入試に直結することを意識させたい。また、特に成績上位者に対しては、模擬試験の結果を活用し、より成績向上を意識できる指導・声かけを行っていく。
- オ. 大学生や社会人となった卒業生から生徒が直接話を聞く機会を多く設け、進路意識の向上、大学での学びの動機付け、キャリア観の育成を図っていく。
- カ. 生徒一人一人の基礎学力の向上、学習習慣の定着をはかるために、各教科と連携し、授業のあり方、課題の課し方などについて、積極的に議論していく。また、デジタル教材の活用も進め、効率的な学びについても常に研究していく。
- キ. 近年、受験者数が増加傾向にある学校推薦型選抜（指定校・公募）、総合型選抜といった特別入試への対応を進める。具体的には、志望理由書作成に向けた指導の早期化、特別入試に直結する生徒の具体的な体験の機会を増やすなどの方策を進めていく。

②特進クラスの充実を図る。

- ア. 「叡智探究特進プログラムコース」に在籍する生徒が受験した模擬試験結果について、当該学年の教員、授業担当教員による結果分析会を開催し、授業の様子や模試結果などを共有し、事後の学習指導に反映できるようにする。
- イ. 授業がより充実するよう、デジタル教材の積極的な活用を進め、より効率よく授業を進展させる。

③キャリア教育の充実を図る。

- ア. 中学生の職業観育成や、社会の成員としての主体性の涵養に必要な情報を提供できるような進路行事を実施する。

④主体的に学習する生徒を育成する。

- ア. 主体的に学習する生徒の育成をはかることを目的に、朝、及び放課後の自習環境を整える。高校生に対しては、希望者に18時までの自習室延長利用を認めるなど、生徒の自主的な姿勢を支援していきたい。
- イ. 生徒が、主体的・計画的に学習を継続できるようにしていく。

⑤生徒の学習実態に即した補習・講習を計画し実施する。

ア. 生徒の学習実態、成績の状況について各教科とよく相談し、実態に即した補習、長期休暇中の講習等の開講を計画し、実施する。

(4) 生活部

①生徒の健全な成長と安全を見守るため、以下の施策を実施する。

- ア. 避難訓練
- イ. 帰宅経路別班の集会と下校訓練
- ウ. 危険回避講演会と性被害防止講演会
- エ. 自転車通学者対象の安全講習会（年2回）
- オ. J R八王子駅11番乗り場へ警備員の配置
- カ. スクールカウンセラーの原田先生による教職員対象の研修会

②生徒主体の活動が活発化するように援助してゆく。

これまでよりさらに自主自律的な活動となるよう、生徒をサポートしていく。また、生徒が【FYM=Find your mission】を軸にした活動がしやすい環境を整え、支えていく。

ア. 生徒会を中心とし、代議員をはじめ各委員会とクラブ協議会が連携して取り組む。

イ. 学校生活充実のため、生徒会を中心に校則の検討を行う。

(5) 入試広報部

出願、受験、入学の流れを確保するために、以下の項目の充実を図る。

- ア. ホームページや公式Youtubeチャンネル「純ちゃんねる」、Instagram等の、学校配信の広報媒体を強化する。
- イ. 上記アに基づき、広報予算については紙媒体を大幅に削減し、ホームページや学校紹介動画制作等に傾斜配分する。
- ウ. 原則として、月1回のペースで中高それぞれの説明会またはイベントを実施する。カトリック学校らしい内容の充実を図るとともに、純心にふさわしい洗練された運営を目指す。
- エ. 在校生および保護者、卒業生への広報活動を強化することで、新しい学校づくりへの理解と協力を促す。
- オ. 外部業者とも連携しながら塾訪問、中学校訪問を計画的に行い、域内への広報周知を図る。
- カ. 的を絞った効果的な広報活動のため、部内に渉外担当を新設する。ホームページや説明会、イベントを管轄する広報担当と、中学校訪問、塾訪問を管轄する渉外担当に分け、広報活動の充実を図る。

3. 施設・設備

各施設・設備について、実施する予定の主な修繕や改修は以下の通りです。

(1) 学園

- ・警備室更新
- ・無線LANコントローラー・アンテナ更新
- ・揚水ポンプ系統マグネットスイッチ更新
- ・井戸改修工事

(2) 大学

- ・図書館第三閲覧室エアドック・産業用除湿器設置
- ・看護棟系統加圧給水ポンプ更新
- ・新館系統高置水槽電極棒（水位制御用）更新
- ・C棟雨漏り箇所補修工事
- ・大学校舎誘導灯LED化工事

(3) 中高

- ・非常放送設備更新
- ・高校校舎エレベーターピット漏水補修工事
- ・労作室漏電改修工事
- ・低濃度PCB入り変圧器処分

4. 財務概要

概要

少子化に伴う18歳人口の減少や社会の多様化などにより、学生・生徒の確保がむずかしくなってきた状況の中で、国や地方自治体による私学助成が総額抑制傾向にあることなど、私学経営は非常に厳しいものとなっている。こうした環境の中、本学園の財務状況も数年来厳しい状態が続いている。

2023年度は、教育の質の向上など教育活動を支える財政基盤の安定化を目指すため、教職員の意識改革を進め教育改革を推進していく。また、学園の負債とならない帰属収入の安定的な確保を図るため、中学校・高等学校・大学はそれぞれの入学定員確保に努める。また、支出面においては、極力コスト削減に努力し、費用対効果を高めることとする。

(1) 資金収支予算書

資 金 収 支 予 算 書

令和 5 年 4 月 1 日

令和 6 年 3 月 3 1 日

(単位 円)

収入の部			
科 目	令和 5 年度予算額	令和 4 年度予算額	差 異
学生生徒等納付金収入	775,328,800	765,709,200	9,619,600
手数料収入	7,926,908	9,318,908	△ 1,392,000
寄付金収入	5,951,295	6,101,295	△ 150,000
補助金収入	337,935,976	327,935,976	10,000,000
国庫補助金収入	81,889,000	76,489,000	5,400,000
地方公共団体補助金収入	256,046,976	251,446,976	4,600,000
資産売却収入	0	0	0
付随事業・収益事業収入	3,024,985	3,024,985	0
受取利息・配当金収入	2,004,354	2,885,354	△ 881,000
雑収入	57,980,665	73,472,591	△ 15,491,926
借入金等収入	100,000,000	100,000,000	0
前受金収入	194,484,000	219,899,000	△ 25,415,000
その他の収入	245,037,690	345,037,690	△ 100,000,000
資金収入調整勘定	△ 229,511,499	△ 229,511,499	0
前年度繰越支払資金	368,303,027	258,831,390	109,471,637
収入の部 合 計	1,868,466,201	1,882,704,890	△ 14,238,689
支出の部			
科 目	令和 5 年度予算額	令和 4 年度予算額	差 異
人件費支出	1,051,272,737	1,059,707,913	△ 8,435,176
教育研究経費支出	376,980,000	343,713,300	33,266,700
管理経費支出	70,260,000	70,464,000	△ 204,000
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	200,000	200,000	0
施設関係支出	2,890,000	6,488,000	△ 3,598,000
設備関係支出	37,084,000	11,815,000	25,269,000
資産運用支出	880,065	880,065	0
その他の支出	30,362,487	30,892,671	△ 530,184
〔予 備 費〕	25,000,000	25,000,000	0
資金支出調整勘定	△ 34,759,086	△ 34,759,086	0
翌年度繰越支払資金	308,295,998	368,303,027	△ 60,007,029
支出の部 合 計	1,868,466,201	1,882,704,890	△ 14,238,689

(2) 事業活動収支予算書

事業活動収支予算書

令和5年 4月 1日から

令和6年 3月31日まで

(単位 円)

教育活動収支	収入の部	事業活動	科 目	令和５年度予算額	令和４年度予算額	差 異		
			学生生徒等納付金	775,328,800	765,709,200	9,619,600		
			手数料	7,926,908	9,318,908	△ 1,392,000		
			寄付金	5,951,295	6,101,295	△ 150,000		
			経常費等補助金	337,935,976	327,935,976	10,000,000		
			付随事業収入	3,024,985	3,024,985	0		
			雑収入	57,980,665	73,472,591	△ 15,491,926		
			教育活動収入計	1,188,148,629	1,185,562,955	2,585,674		
	支出の部	事業活動	科 目	令和５年度予算額	令和４年度予算額	差 異		
			人件費	1,052,850,117	1,077,914,354	△ 25,064,237		
教育研究経費			548,020,300	526,851,036	21,169,264			
管理経費			76,028,886	76,232,886	△ 204,000			
徴収不能額等			0	0	0			
教育活動支出計			1,676,899,303	1,680,998,276	△ 4,098,973			
教育活動収支差額			△ 488,750,674	△ 495,435,321	6,684,647			
教育活動外収支	収入の部	事業活動	科 目	令和５年度予算額	令和４年度予算額	差 異		
			受取利息・配当金	2,004,354	2,885,354	△ 881,000		
			その他の教育活動外収入	0	0	0		
			教育活動外収入計	2,004,354	2,885,354	△ 881,000		
	支出の部	事業活動	科 目	令和５年度予算額	令和４年度予算額	差 異		
			借入金等利息	0	0	0		
			その他の教育活動外支出	0	0	0		
			教育活動外支出計	0	0	0		
			教育活動外収支差額			2,004,354	2,885,354	△ 881,000
			経常収支差額			△ 486,746,320	△ 492,549,967	5,803,647
特別収支	収入の部	事業活動	科 目	令和５年度予算額	令和４年度予算額	差 異		
			資産売却差額	0	0	0		
			その他の特別収入	0	0	0		
			特別収入計	0	0	0		
	支出の部	事業活動	科 目	令和５年度予算額	令和４年度予算額	差 異		
			資産処分差額	12,682,523	4,520,657	8,161,866		
			その他の特別支出	0	0	0		
			特別支出計	12,682,523	4,520,657	8,161,866		
			特別収支差額			△ 12,682,523	△ 4,520,657	△ 8,161,866
			〔予 備 費〕			25,000,000	25,000,000	0
基本金組入前当年度収支差額			△ 524,428,843	△ 522,070,624	△ 2,358,219			
基本金組入額合計			0	0	0			
当年度収支差額			△ 524,428,843	△ 522,070,624	△ 2,358,219			
前年度繰越収支差額			△ 4,849,522,222	△ 4,632,987,208	△ 216,535,014			
基本金取崩額			183,243,211	305,535,610	△ 122,292,399			
翌年度繰越収支差額			△ 5,189,826,854	△ 4,849,522,222	△ 340,304,632			
(参考)								
事業活動収入計				1,190,152,983	1,188,448,309	1,704,674		
事業活動支出計				1,714,581,826	1,710,518,933	4,062,893		
事業活動収支差額				△ 524,428,843	△ 522,070,624	△ 2,358,219		